

Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2006.10 No.30



**SATOMI KAWAKAMI
HANK JONES**



JazzToday 06 @STB139

Jazz Today⁰⁶

10/23(mon)~10/26(thu) @STB139 スイートベイジル[®]

「これまで」と「これから」が 同時鑑賞できる幾夜。

text by 末次安里 (JazzToday 編集長)

一冊目を書き終えたら妙に筆が乗ってしまい、難なく「続」編が仕上がり、次いで「続々」が上梓され、さらに「新・○○」やら「帰ってきた○○」なるコトバが冠されて気づけば、続刊が待たれる人気シリーズに成長していたなんていう小説や随筆が“稀”にある。稀であるのは、それが最初から計って生まれた人気ではないからだろう。当初は銀座のソミドホールを舞台にスタートしたこの『JazzToday』というライブ・イベントもどこか、そんなシリーズ本の流れに似ているような気がしてならない。銀座時代は「mood swing」などのキーワードも付いていたが、いつの間にかシンプルな年号読みだけに統一されてしまうという結構アバウトな面もあるのだが(笑)、イベント名の西暦が加算されてゆくのはとりもなおさず「持続力」を意味しているわけでそれが何よりも喜ばしい。

また、舞台を六本木(@STB139)に移してからの2003年以降をふり返ってみても「短いようで長い」一年の変容が読み取れるから面白い。菊地成孔を例にとっても、銀座時代は東京ザヴィヌルバッハとして登場し、@STBの初年度は現在のquintet live dubの原型ユニット(ドラムは芳垣安洋)をお披露目。『デギュスタシオン・ア・ジャズ』を発表した翌年は、quintet live dub with stringsという豪華な編成で初日を飾り、翌日はTZB+オラシオ“エル・ネグロ”エルナンデスで“別の顔”を見せるなどの活躍ぶりを見せた。そして昨年からはPepe Tromeito Azcararを組んで『南米のエリザベス・テイラー』+新曲でファンを魅了・拡大し、今夏はUAとのコラボ盤『cure jazz』で話題を独占してきた菊地がはたして今年は何を見せてくれるのか——大いに楽しみである。

というのも毎秋、このイベントを定点観測してきた立場だからこそ見えてきたことがあって、それは(アーティスト各人がどれほど意識しているかどうかは別問題として)とりわけ常連組に顕著な傾向として『JazzToday』での発言や演奏スタイルが“その後の彼(ないしは彼女)”を予見させるある種の節目、野心的な実験の場として機能している部分がかかなりあるという事実だ。言い方を変えれば、毎年恒例のこの場合は各参加アーティストのここ一年間の総集編が堪能でき、同時に今後の予告編的な楽しみがお土産でついてくる、というお得感さえある。50歳を迎えた渡辺香津美が「こうなりゃ100年ギターで1世紀! 100歳になってもうるさいギター弾いてるジジイをめざします(笑)」とファン歓喜のコメントをしたのもこのステージ(2003年)だったし、Guitar Renaissance specialと題した昨年は1曲目の(アクロス・ザ・ユニバース)から熟成のアコースティック・サウンドで聴衆をたちまち驚嘆みにして魅せた。そんな玉手箱的催しで今年はいったい何が飛び出すのか。個人的には昨秋、仕事の都合で唯一見逃してしまった中島ノブユキのステージを観れるのが楽しみであり、かなり期待を寄せている。今年も濃密な秋が来る!

Jazz Today⁰⁶

10/23 (mon) ~ 10/26 (thu)
@STB139 スイートベジル

10/23 (mon) 菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ

10/24 (tue) 中村真 / 中島ノブユキ

10/25 (wed) BOZO / 橋本一子 Ub-X

10/26 (thu) 渡辺香津美

お問い合わせ / 電話予約

STB 139 tel 03-5474-0139

(月~土 11:00AM~8:00PM)

チケット取り扱い:

ローソンチケット tel 0570-000-777

チケットぴあ tel 0570-02-9999

10/23 (mon)

■ NARUYOSHI KIKUCHI QUINTET

door open 18:00 show start 19:30 charge:6,300yen(税込)

出演：菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ

〈菊地成孔(sax,vo) 坪口昌恭(pf) 菊地雅晃(b) 藤井信雄(ds) パードン木村(live PA)〉

今年も秋のド真ん中、JazzTodayの季節がやってくる。2006も口火を切るのは菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ！ 演奏中は季節や時間、戸外の気候も次元さえも忘れさせてくれるような妖しくも幻想的なバンド・サウンドが毎回、STB139の観衆を包み込む。“ジャズへの帰還”を宣言して以降、その根拠地的な表現集団として初披露した2003年秋のステージからJazzTodayは、菊地成孔の現在と未来を如実に感じ取れ、“これから”への期待を刺激してやまない一夜であった。さて、今年のクインテット・ライブ・ダブはどんな幻花を咲かせ、六本木の秋を色めかせるのだろうか？

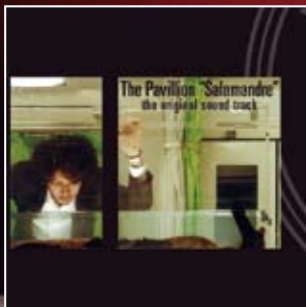
LIVE DUB

菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ

〈菊地成孔 (sax,vo) 坪口昌恭 (pf) 菊地雅晃 (b) 藤井信雄 (ds) パードン木村 (live PA)〉

9月公開の映画『パビリオン山椒魚』の音楽を手掛け、10月には「菊地成孔とペペ・トルメント・アスカラル」による新譜リリースも控えている菊地成孔が自身のジャズのコア・プロジェクトである「クインテット・ライブ・ダブ」を率いて今年も登場。リアルタイムにダブ処理されるアコースティック・ジャズの“粋”を、ご堪能ください。

www.kikuchinaruyoshi.com



『パビリオン山椒魚』
菊地成孔

EWCD-0127

2006.9.16 Release!

2006.11.10 Release!

『野生の思考』

菊地成孔とペペ・トルメント・アスカラル

EWCD-0117(2CD)



中村真トリオ <中村真 (pf) 中村新太郎 (b) 小前賢吾 (ds)>

今年に入ってソロ・ピアノ作品を立て続けにリリースした中村真。スタンダード曲でまとめた第2集はもとより、オリジナル曲中心の第3作でのイマジネーション溢れるプレイは、うるさ型のジャズファンをも唸らせました。全国のジャズクラブを自転車ですべてのソロライブツアーも話題に。今回はピアノ・トリオ・サウンドを、斬新な解釈で聴かせてくれることでしょう。

members.aol.com/makosimo/

『solo piano vol.3 ~ 紡がれた印象』

中村真

EWCD-0112

2006.7.5 Release!



10/24 (tue)

■ MAKOTO NAKAMURA
■ NOBUYUKI NAKAJIMA

door open 18:00 show start 19:30
charge:5,000yen(税込)

出演: 中村真トリオ

<中村真 (pf) 中村新太郎 (b) 小前賢吾 (ds)>

中島ノブユキ"エテ・パルマ"アンサンブル

<中島ノブユキ (pf) 鈴木正人 (b) 北村聡 (bandoneon)
伊藤ゴロー (g)、弦楽三重奏>

菊地成孔のジャズ帰還作『デギュスタシオン・ア・ジャズ』で弦とハーブのアレンジを担当して以来、相性抜群にして意義ぶかいコラボレーションを重ねているのが中島ノブユキ。JazzTodayへの出演は昨年に次ぎ2度目だが、今夏は自らの初ソロアルバム『エテパルマ 夏の印象』も発表し、その幅広く独創的なサウンド世界をJazzTodayのステージで開示する。一方、過去のJazzTodayではピアノ独奏で孤軍奮闘し、その妙なる響きと深遠な音像でファン層を拡大。日々の孤高な成果を3枚のソロ連作『a drifting map of the wavering』『standards』『紡がれた印象』に編んできた中村真は今回、注目のトリオで登場を。両者の対比が興味深い一夜である。



中島ノブユキ "エテ・パルマ" アンサンブル

<中島ノブユキ (pf) 鈴木正人 (b) 北村聡 (bandoneon)
伊藤ゴロー (g)、弦楽三重奏> guest: 林夕紀子 (vo)

ピアニスト、作曲家、編曲家、プロデューサーとして数々のアーティストの音楽をサポートしてきた中島ノブユキ。傑作との誉れ高いファースト・アルバム『エテ・パルマ～夏の印象～』の世界そのままの、室内楽、ボサノバからジャズを横断した、優美な調べをお楽しみ下さい。ゲスト・ヴォーカルに林夕紀子 (ex. choro azur) を迎えて。

www.nobuyukinakajima.com

『エテパルマ～夏の印象～』

中島ノブユキ

EWCD-0113

2006.7.26 Release!



BOZO 〈津上研太 (sax) 南博 (pf) 水谷浩章 (b) 外山明 (ds)〉

デートコースペンタゴンロイヤルガーデン、大友良英ニュー・ジャズ・オーケストラ etc のサクセス奏者として活躍する津上研太率いるBOZO(ボウゾ)。セカンド・アルバム『DUENDE』を引っさげて登場した JAZZ TODAY 05 でのライブ・パフォーマンスも好評を博しました。今度は、来年リリース予定のサード・アルバムの前哨戦となるステージをみせてくれるはず。

www.kenta-site.com



『DUENDE』
BOZO
EWCD-0110
2005.10.7 Release!

3日目のステージも両者のコントラストが愉しみな2組が登場する。津上研太・南博・水谷浩章・外山明といずれもジャズ界にとどまらず、現在の先鋭的なシーンで引っ張りだこな奏者たちが集ったBOZOは、“ふだんは視えないもの”にかたちを与え、さながら“視えるような”サウンドで聴衆を魅了するクアルテット。『1st』に次ぐ『DUENDE』に収録された〈Rainy Park With Butterfly〉など津上オリジナルの幻想性も益々磨きがかかって女性のファン層も増殖中らしい。

片や橋本一子・井野信義・藤本淳夫から成る最強トリオ、Ub-Xの演奏は都市の死角や埋立地の乾きに潜む寂寥感を音を与え、“耳をそばだてれば聞こえるはずのもの”を現出させてくれるようなサウンド世界にあふれている。彼らの話題作『Ub-X』が醸し出す“現在への郷愁”と“未来の記憶”は聴く者を幻惑してやまない。なじみの音楽を脱ぎ捨てて、一夜の斬新な出逢いを堪能したい。



10/25 (wed)

■ BOZO
■ HASHIMOTO ICHIKO Ub-X

door open 18:00 show start 19:30
charge:5,000yen(税込)

出演: BOZO

〈津上研太 (sax) 南博 (pf) 水谷浩章 (b) 外山明 (ds)〉

橋本一子 Ub-X

〈橋本一子 (pf,vo) 井野信義 (b) 藤本敦夫 (ds)〉

橋本一子 Ub-X

〈橋本一子 (pf,vo) 井野信義 (b) 藤本敦夫 (ds)〉

ピアノ、ヴォーカル、映画・CM音楽の作曲等のほか声優としても活動するなど、多才ぶりをみせる橋本一子。今年3月にリリースしたアルバム『Ub-X (ユビークス)』では、ピアノ、ヴォイスを自在に操り、ポリリズムを駆使した浮遊感漂うサウンドで唯一無二の存在感をアピールしました。今回はアルバム収録曲はもちろん、新曲も披露してくれるそうです。

homepage2.nifty.com/najanaja/ub-x.html



『Ub-X』
橋本一子
EWSA-0115
2006.3.22 Release!



KAZUMI Watanabe

“New”に込めた 冒険心が満載の 第三弾!

text by 末次安里 (JazzToday 編集長)

カメルーン出身のリチャード・ボナ (b) と、キューバ出身のオラシオ “エル・ネグロ” エルナンデス (ds)、そして自らは日本人である渡辺香津美 (g) がなぜ、この非米国人から成るトリオの名称に KAZUMI WATANABE New Electric Trio とわざわざ “New” の 3 文字を入れたのか。じつは一度も本人に質したことはないのだが、そこに込めた想いを推理してみたい。ご存知のとおり、現在の渡辺香津美は Guiter Renaissance というアコースティック・サウンドの連作と、この Mo' Bop というエレクトリック・トリオの連作を交互に制作・発表し、50 歳を過ぎて益々血気盛んな創作意欲を見せている。

また、筆者は両新作が完成する度、本人から制作秘話を伺うという機会に恵まれてきたが、「Guiter Renaissance を創ったことで逆に “エレクトリック・ギターでやらなければいけないこと” が少しくっきりした」との香津美談を聞くまでもなく、両連作の相乗効果は毎回如実に感じ取れ、いわゆるアコギ編とエレキ編のリパーシブル性が独自のスリリングさと思わぬ作品的広がり、あるいは化学反応を催していることは望外の成果であろう。

しかも（ここが肝心なのだが）前述の如く、この両輪というか 4WD 的旺盛さで連発中の二つのシリーズは渡辺香津美が 40 代最後の季節に企画され、来るべき 50 代に向けて口火が切られたという点がなんとも興味ぶかい。夏に『Mo' Bop』第一弾を発表し、直後に 50 歳を迎えた 2003 年秋のライブイベント (JazzToday @STB139) で、彼が宣言したことを筆者はいまだ鮮明に憶えている。「こうなりゃ 100 年ギターで 1 世紀! 100 歳になってもうるさいギター弾いてるジジイをめざします (笑)」。その夜は KAZUMI WATANABE New Electric Night と称し、多忙で来日不可能なボナの代打で “オラシオの弟ぶん” カルロス・デル・プエルトが若々しい低音を響かせたが、その暫定トリオの名称も「渡辺香津美 New Electric Trio」と名前を漢字表記に代えただけで “New” の 3 文字を冠していた。

要は誰よりも渡辺自身が “新生” を意識し、毎作の “冒険心” を忘れず、ココロの “若さ” を心がけている証しなのではなかろうか。青年期の師匠、中牟礼貞則 (g) と念願の共演が実現した『Guiter Renaissance III』の取材で彼がこう語っていたのが印象的だった。「先生は 74 歳になられるのに演奏のほうはとともタイ



トで素晴らしくて。実年齢はともかく “音は齢をとらないんだな” というのをまざまざと感じて清しい気持ちになりました。やはり一番学ぶのは現役で演奏なさっている姿を観るコトだと思うんですよね。そして今回発売される『Mo' Bop III』では、自らの変わらぬ青春性が炸裂。ヨーヨー・マからジョン・ゾーンまで幅広くコラボしているブラジル出身の鬼才、シロ・パプティスタ (perc) をゲストに迎えて “New” の要素を加味した彼のトリオの第三弾。カバー対象もカーラ・ブレイからオリバー・ネルソンまでと想定外の面白さが満載されて Guiter Renaissance と自ら拮抗させている意欲作だ。渡辺香津美、一歳下の筆者にいつも元気をくれる人である。



『MO' BOP III』
渡辺香津美 New Electric Trio
EWSA-0126 2006.9.6 Release!



10/26 (thu)


KAZUMI WATANABE

door open 18:00 show start 20:00 charge:6,300yen(税込)

出演：渡辺香津美 (g) ほか

さて、2006のトリを飾るのはやはり渡辺香津美。昨年のJazzToday最終日にはソロで臨み、『Guitar Renaissance』I & IIの完熟総集編的な構成でSTB139を埋めた聴衆を魅了。一本のギターでめぐる世界各地の音楽織物ふうなサービスコーナーまで設けて、香津美ワールドの豊穡さを堪能させてくれたが、今年は師匠の中牟礼貞則や同世代シンガーの吉田美奈子らを迎えて待望発売されたギターネ第3弾を発売。次いで『Mo'Bop III』もリリースしたばかりの彼が「渡辺香津美ほか」という「ほか」の部分に誰を用意し、どんなサプライズで当日のステージを展開してくれるのか。最終日も見逃せない!

渡辺香津美

渡辺香津美 (g) ほか

アコースティック・ソロによるプロジェクト「ギター・ルネッサンス」と21世紀のバップを呈示するニュー・エレクトリック・トリオ「モバップ」の2本柱でアルバムを続々発表、精力的な活動をみせる渡辺香津美。最新作『MO' BOP III』ではブラジル出身の鬼才パーカッショニスト、シロ・パプティスタとの共演も話題です。今年は何をみせてくれるのか、どうぞお楽しみに。

www.hilltop.co.jp/kazumi/

 Guitar Renaissance III (翼)
 渡辺香津美

EWSA-0125 2006.6.7 Release

bodyelectric @duo MUSIC EXCHANGE

10/19 (thu)

■ 坪口昌恭 × NUMB (ekoune/revirth)

■ quartz-head 01

藤原大輔 as quartz head(sax synthesizer,etc) / rebustape(digitalmodular synthesizer) / featuring Omar / Guandefall (djambe,vo)

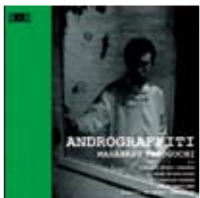
■ oshima teruyuki'into the black' ensemble force001

大島輝之(computer,guitar) / イトケン (drums) / 塚本真一 (e.piano) / 守屋拓之(bass) / 庄司広光 (syn) / 榎村昌弘 (drums)

■ DJ:富永昌敬

door open 18:30 show start 19:00 charge:3,500yen(前売) 4,000yen(当日)

問合せ Shibuya DUO Music Exchange <http://www.duomusicexchange.com/> TEL: 03-5459-8716 E-Mail: info@duomusicexchange.com



坪口昌恭
『ANDROGRAFFITI』
EWBE-0019
2006.1.20 Release!

坪口昌恭

菊地成孔(sax CDJ)とのサイバー・コラージュ・ファンク・ユニット、TZB(東京ザヴィヌルパッパ)での活動のほか、DCPRG(デートコースペンタゴンロイヤルガーデン)、菊地成孔クインテット・ライブ・ダブの鍵盤奏者として活躍。最新作はオラシオ・エルネグロ・エルナンデス等NYラテンのアーティストたちとコラボレートした『ANDROGRAFFITI』。本イベントではNUMB(ekoune/revirth)との初共演に期待が高まる。



NUMB

92年、ニューヨークでエンジニアリングを学び、帰国後の95年、CALMと共にKARMA MUSICを立ち上げ、シングル「FILE#2 / 深脳」をリリース。97年にはRevirthの立ち上げに携わり3枚の12インチシングルをリリースしたのち、02年に1stアルバム『NUMB』を発表。最新作は「空(くう)」(Revirth)。ラップトップを使用し、MIDIコントローラーでビートやヴォリューム、エフェクトや曲の構成をリアルタイムに操り演奏するその靈妙なサウンド・パフォーマンスは、国内外で高い評価を得ている。



NUMB
『空』
RECD-016
2006.8.18 Release!

JazzToday⁰⁶

はみだし者の系譜というわけでもなからうが(笑)、例年、@ STB139 の枠には収まりきれないアーティストやサウンド群を一同に集めて“一夜限りの競演”を堪能してもらおうという別枠ショーケースがこの、「裏」JazzToday とも呼べる催し。今年は@ Duoの開催となるが、一晩で4組のさまざまな個性がツマミ食いてくるといふ多彩さという点では「+α」の催しでありながら、『JazzToday 06』前夜祭のお役目は充分。「自己表現を確立しているものは総て JAZZ と位置づけたい」というewe のポリシー全開だ!!



quartz head 01

人気ジャムバンドとして国内外で注目を集めた phat の解散後、デトロイト体験を経て、藤原大輔 (sax) がテクノのグルーブとジャズ/インプロヴィゼーションの融合を探究すべく独立させたプロジェクトが "quartz head"。そのヴァージョン1である「01」はデジタル・モジュラー・シンセサイザー・プログラマー/プレイヤー、rebus tape との co. プロジェクト。セネガル人パーカッションист、オマール・ガンデフォールをフィーチャーし、デトロイト・テクノの根幹にあるアフロへの果敢なアプローチをみせる。



quartz-head 01
『"sen-tence"』
EWBE-0022
2006.6.21 Release!



v.a.(Le son sauvage)
『Le son sauvage』
ewbe-0014
2005.3.23 Release!

oshima teruyuki' into the black'ensemble force001

feep、sim といったバンドで活躍してきた大島輝之 (g)。body electric records から 05 年リリースされたコンビ『Le son sauvage』へ sim で参加したのも記憶に新しい彼が、初のソロアルバム『into the black sun...』発売を前にして、15 名に及ぶアルバム参加者の中から、force001 (001 部隊) を率いて登場。このメンバーの為に新たに曲を書き下してこの夜のステージに臨む。



富永昌敬

9月公開の長編デビュー作『パビリオン山椒魚』が注目を集め、短編シリーズ「亀虫」が富川国際ファンタスティック映画祭で大絶賛されたのをはじめ、「シャーリー・テンプル・ジャポン」等の作品が国内外映画祭で上映されるなど熱狂的なファンを増やし続けている映画監督。『パビリオン山椒魚』の音楽を担当した菊地成孔のPV『京マチ子の夜』も手掛けている。今回はDJというよりも、自身の映画のサウンドを盛り込んだ音響作品、といった趣のものを披露してくれる、らしい。



菊地成孔
オリジナルサウンドトラック
『パビリオン山椒魚』
EWCD-0127
2006.9.16 Release!



JazzToday 06の

来場者全員にもれなく進呈!

JazzToday⁰⁶
来場者特典!!

好例の無料限定配布本
『ewe 総合カタログ』は、
今秋も 300 ページ強のぶ厚い装丁で
現在、鋭意編集中!!

かつて JazzToday 誌上に掲載された、
ewe 関連アーティストのレビューや
インタビュー記事も再録。
これ一冊でeweの10年間で
「これから」が俯瞰できる。

JazzToday⁰⁶

10/23(mon)~10/26(thu)
@STB139 スイートベイジル

10/23 (mon) 菊地成孔クインテット・ライブ・ダブ

10/24 (tue) 中村真 / 中島ノブユキ

10/25 (wed) BOZO / 橋本一子 Ub-X

10/26 (thu) 渡辺香津美

お問い合わせ / 電話予約

STB 139 tel 03-5474-0139

(月~土 11:00AM~8:00PM)

チケット取り扱い:

ローソンチケット tel 0570-000-777

チケットぴあ tel 0570-02-9999

HANK JONES

JazzToday Special INTERVIEW

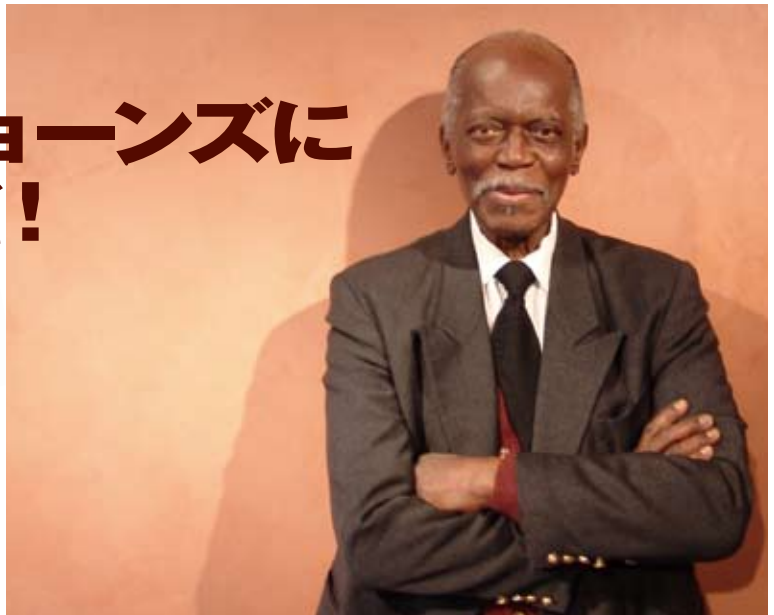
ハンク・ジョーンズに 会ったんだ!



連載第3回

生涯忘れない出来事

聞き手：末次安里（本誌編集長）



JazzToday：JATP時代の楽旅の思い出をひとつ教えてください。

Hank Jones：いいけれども、これはそうだねえ、旅の思い出というよりも、ツアーの最中に遭遇した絶対に忘れられない出来事のひとつとして話すんだけど…もちろん当時もまだ、南部のある一部の地域では根強く人種差別が残っていた。なんというのか、ある一定の境界線を境にということかたちで、たとえばミシシッピ州のジャクソンという町ではいまだに人種差別があるということは想像に難くない時代だったわけだね。

JT：はあ…。

HJ：しかし、ミシガン州のジャクソンの場合はその境界線の上のほう、つまり“北部”に当たる場所だったので、バンドの皆もまさかというか、さほど人種差別がある場所とは思っていなかった。そういう土地でのコンサートというつもりで町に入ったわけさ。

JT：予想外の展開が待ち受けていた、と…。

HJ：そうなんだ。その晩もコンサートが終わってから、いつもどおり皆で連れ立ってあるレストランに行ったんだ。それぞれコールマン・ホーキンスもいたり、ビル・ハリスもいたり、その白人も黒人も一緒にグループ行動して、そのレストランに入ったんだけど、ど

んなに待っても一向にオーダーを取りに来ないし…。

JT：ああ、無視を決め込まれて…。

HJ：うん。一切何もしようしないので、店の人間に「どうしてオーダーすら取りに来ないんだい？」って聞いたら、こう応えたんだね。「ええ、私どものレストランでは白人と黒人が混じったグループに対してはサービスを行わないしきたりです」と。バシッとそう、説明したんだね。ところがそのミシガン州というのは、人種差別撤廃法のなかで一番最初に「差別は撤廃すべきだ」と名乗り出た州だったわけで…。

JT：余計に仰天されたわけですね。

HJ：それは驚くよ。だって、そういう差別に対する罰金が当時で5,000ドルだから、今の5,000ドルとは比べようもなく高いわけでしょう。が、にも係わらずレストラン側は「その5,000ドルを甘んじて払いたい」と云うんだもの。「きみたちに料理を出すくらいならば、俺は5,000ドルを払うほうを選ぶね」と、そうオーナーが言ってきたんだ。その場面は今でも生々しく憶えているね。

JT：それこそJBやマイルスの自伝を読むとよく出て来る、当時の差別の実態ですよね。

HJ：そうだね、他のミュージシャンたちも当時同じような体験をしたらろうことは想像に難くないよね。

ただ、何が一番ショックだったかといえば、それが南部の出来事ならばまだ、然もありませんという感じだったんだけど、それが北部の町で起きた出来事だということがビックリしたんだよね。

一次号へ続くー



The Talented Touch | Porgy and Bess
Hank Jones



© NAMI OGATA

Jazz of LIFE

シカゴと夜と音楽と

連載 vol.6

ヴォンスキー

text by 尾形奈美

今年もヴォンスキーの誕生日が近づいてきた。ヴォンスキーというのは、テナーサクソスの巨匠ヴォン・フリーマンのニックネーム。NYで活躍しているチコ・フリーマンの父で、齢84歳。今でも火曜日の夜にはシカゴのサウスサイドにあるニューアパルトメントラウンジで、毎週2時間ぶっ続けのギグをこなしている。そして、毎年10月3日の誕生日直前の火曜日には、ライブと共にヴォンの誕生日を祝うのが恒例になっている。ヴォンの客は毎週足繁く通ってくる常連が多いのだが、この日ばかりは彼らに加えて、久しぶりに顔を出す客から、レコード会社のお偉いさんや、仕事帰りのミュージシャンやらがわんさとヴォンの誕生日を祝いにやってきて、狭いクラブが溢れんばかりの人でいっぱいになってしまうのだ。もちろん、いつも通りにヴォンのいぶし銀とというか、嵐とというか、

年齢を超えた熱い演奏が2時間近く続き、その音色にお客が半狂乱の歓声をあげる。そして、その中の誰かが「ハッピーバースデー…」と歌い出すのを合図に、バンドもお客さんもみんなて歌い出すのだ。もちろんサビは「ハッピーバースデーディアヴォンスキー!」。ヴォンはトレードマークのサングラスからひよこっと上目遣いにお客を覗き、嬉しそうにアニメのキャラクターみたいなかわいらしい笑顔で「ヒャッホ〜」と手をあげる。あとはまた、いつも通りに飛び入り客が1曲ずつ歌い、朝方まで続くジャムセッションへと。私たちお客は、カウンターでこの日だけ特別に振舞われるソウルフードと呼ばれる黒人料理(チキンやクタクタになるまで塩茹でしたようなほうれん草)をほおぼり、大きなバースデーケーキのひとつかケをいただくのだ。

写真は、78回目の誕生日にカウンターの

端から撮ったもの。ASA3200のフィルムで絞りF1.4シャッタースピードは1/15秒。被写体が動いても、私が動いてもピンボケ必至のセッティングだが、暗いクラブ内ではほとんど選択肢がないから仕方がない。一か八かでシャッターを切ったうちの一枚。引き伸ばしてアメリカの写真雑誌に送ったら賞をいただいた。そして、79回目の誕生日には、なんとバースデーケーキの上に印刷されていた。白く巨大なケーキの上に白黒写真…大胆な発想の割に、なんとも地味なバースデーケーキではあったが、まあ、写真が気に入ってもらえるのだから、光栄なことである。

■尾形奈美 宮城県仙台出身。写真家。2002年Chicago Jazz Festivalに運動してHotHouse Picture Jazz展に招待出品以来、シカゴを中心に活動してきた。03年、米国の写真雑誌「Photo Review」の国際写真コンテストにて第3位を受賞。今年2月仙台にて初の個展。

ホーンの逆襲

ジャズの主役に管が戻ってきた

音楽を聴く人には音楽細胞というものが出てくる。ジャズファンはその細胞が多いと思っている。さまざまなジャンルの要素を吸収しているジャズはそんな音楽細胞を限りなく増殖させてくれるからだ。僕はそんな細胞を刺激してくれるCDを求め日々レコード店の新譜コーナーに足を運ぶ。試聴機にも入らない、アーティスト名もレーベル名も知らない輸入盤のジャケットを隅々までみる。自分のあらゆる経験と嗅覚を駆使し、5インチのジャケットからCDの音を想像する。この時間が最高に楽しい。CDが誕生し早25年。本格的なCD時代が到来した1990年代から世界中で多くのインディーズレーベルが生まれ、日本にも多く流通されるようになった。CD時代



Benjamin Koppel「BABOP」(Cowbell)

＝インディーズレーベル＝ピアノトリオといっているほど、世界中で数多くの良質なピアノトリオ作品が生まれ、店頭を彩る。良質なピアノトリオを聴いて新たな音楽細胞が出来た人も多いはずだ。当然店頭の新譜コーナーは大半をピアノトリオが占め、端のほうでホーンの作品が肩身狭そうにレイアウトされる。しかしここ1年ほどでそのレイアウトに微妙な変化がでてきている。ガッツのあるホーン作品が増えている。2割程度だったホーンものが3割、4割と新譜コーナーで徐々にその存在感を示し始めている。新譜は管の入っているものを探す。ピアノトリオに比べバズレも多いが大当たりも多い。この作品はバリの2管。迷わず買った。大当たりだ。

(大河内善宏)

一皮剥けた、ジャズの極意

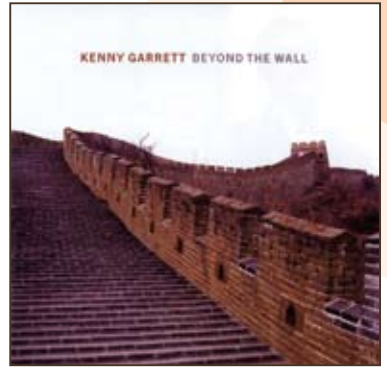
わたしは、ジャズ倦怠期が周期的にやってくる。燃えさかるようなサンバやサルサの熱いリズムを基調とした、ラテンタッチのノリノリな演奏に突き刺さるホーンも、ジャングルビートにグルーブを刻みこむホーンも、もちろん大好きだ。しかし、ときには、いや、むしろ無いほうがましだと感じることがある。ハードバップに飽きたわけではないが、たまには遠ざけたいことがあるのも事実だ。そんな気分するとき、わたしは自分にジャズ倦怠期だといきかせている。もうなれたもので、こんなときほど自分らしくありたい。音楽好きの音楽療法は、選盤以外にないから、慎重にしなければならない。安直に安全パイのピアノトリオを選ぶくらいなら、聴かないほうがまし



Teemu Mattsson 「Teemu Mattsson」(Stride)

だ。沽券にかかわる。まだ、ジャズを好きでいさせてくれるサウンドにこの身をまかせたい。枯渇したこの脳に心地よい刺激を与えてくれるジャズを求めている。この場合、ビッグネームは逆療法だということを百も承知している。矛盾を孕んだ至難の選択を悦びにかえられる…。天邪鬼たるジャズファンのあるべき姿に象徴されているように、これは良い兆候だといえよう。完治に向かっている証拠。「なあに、苦難を乗り越えてこそホンモノ。こんなこと年がら年中さ〜。」などとほざきながら、探し当てたフィンランドの俊英、チーム・マットソン。静かすぎるバックの演奏に映える、艶やかでメロディアスなトランペットの響き。また、一皮剥けた。

(前泊正人)



Kenny Garrett「Beyond The Wall」(NONESUCH)

覚醒

人には出自というものがあがり、それなくして個人は成り立たない。また人には本分というものがあり、それを歩まずして道は究められない。そういった意味でジャズ・ミュージシャンが安易に異文化に触れて「スピリチュアル」だの「コンセプトアルバム」だのといったアルバムを発表することに私は冷ややかな視線を送りがちだ。文学以上に音楽は受け手の感性にその解釈を依存している。ミュージシャンは聴き手の魂をいかに揺さぶってもそこに文字を書いてはならない。

ケニー・ギャレットの新作。万里の長城のジャケットに「中国での3週間の滞在でインスパイアされ…」なんて宣伝文句。嫌な予感。それにピアノトリオに慣れた耳にはホーンの金属音は苦痛かもしれない。だが、Pharaoh Sanders、Bobby Hutcherson、Mulgrew Miller、Robert Hurst、そして何よりBrian Bladeという最高のメンバーをバックに吹き叫ぶ Kenny Garrett の怒涛のアルトを想像すればやり過ぎすわけにはいかない。

予感はいい方向に外れた。ギャレットは「東洋への憧憬」はスパイスに、おのれの出自を忘れず、あくまで「ジャズ」のリズムで攻める。読者のサンプリングさえもグルーブし、リズムはうねり、雨を切り裂くようなブレイドのシンバルの一撃は感情を煽る。ギャレットの悲鳴にも似たアルトは狂気の一歩手前まで研ぎ澄ました感覚を誘う。広がる世界に少し怯える。

ピアノトリオは美しい。水は澄み、空気は香る。そんな世界にちょっと長居しすぎた。ホーンの絶叫が恋しくなった。そろそろ飼ひ慣れた猫も爪を研ぎ、牙を剥いてもいい頃だ。

(白澤茂稔)

【MOONKSとは…】

6人のメンバーの頭文字からなるMOONKS。「批評」ではなく、ただ「好き」を唯一の基準に活動する「ジャズ鑑賞集団」。2004年9月のフリーペーパー「MOONKS Must150」はCD時代の金字塔的ガイドブックとして購入者に圧倒的に支持された。「ジャズ批評」のCDレビューに注目。

e.s.t.

Esbjörn Svensson Trio
LIVE IN JAPAN 2007



e.s.t. (イー・エス・ティ=エスビョルン・スヴェンソン・トリオ)

出演:エスビョルン・スヴェンソン(ピアノ) ダン・ベルグランド(ベース) マグヌス・オストロム(ドラムス)

2007年1月13日(土) 開場 17:00 開演 18:00

会場:渋谷・Bunkamura オーチャードホール

(JR/東急東横線・田園都市線/京王井の頭線/東京メトロ銀座線・半蔵門線 各線渋谷駅徒歩10分)

料金(税込):全席指定 7,000円

*未就学児童のご入場はご遠慮願います。

主催:読売新聞東京本社 後援:スウェーデン大使館

協力:Bunkamura/ユニバーサル クラシックス&ジャズ/ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/ミュージック・エア

TOUR

<横浜公演> 2007年1月12日(金) 開場:18:30 開演:19:00

会場:横浜・関内ホール お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

<大阪公演> 2007年1月14日(日) 開場:16:30 開演:17:00

会場:大阪・なんばHatch お問い合わせ:キョードー大阪 06-6233-8888

進化を続けるe.s.t.の欧州で大ヒットした《ヴァイアティカム》に続く新作。
《チューズデイ・ワンダーランド》 UCCM-1101 ¥2,548(税込)
2006.10.4発売



チケット発売所

鯉沼ミュージック	03-3404-6890
Bunkamuraチケットセンター	03-3477-9999
チケットぴあ	0570-02-9999
	0570-02-9966 (Pコード:234-219)
CNプレイガイド	0570-08-9999 http://www.cnplayguide.com/
ローソンチケット	0570-084-003 (Lコード:38480)
イープラス	http://eplus.jp
楽天チケット	http://ticket.rakuten.co.jp/

9.30 ON SALE!! お問い合わせ:鯉沼ミュージック **03-3404-6890**

天才ジャズトリオが繰り広げる至福のひととき

Keith Jarrett
Gary Peacock
Jack DeJohnette

Keith Jarrett / Gary Peacock / Jack DeJohnette
JAPAN TOUR 2007

2007年4月30日(月・祝) 開場:18:00 開演:19:00

2007年5月 8日(火) 開場:18:00 開演:19:00

会場:上野・東京文化会館 大ホール

(JR上野駅徒歩1分/東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅徒歩5分)

2007年5月10日(木) 開場:18:00 開演:19:00

会場:新宿・東京厚生年金会館

(東京メトロ丸の内線新宿御苑前駅徒歩5分/東京メトロ丸の内線・都営新宿線新宿三丁目駅徒歩10分
西武新宿線西武 新宿駅徒歩12分/JR・京王線・小田急線新宿駅徒歩15分)

料金(税込):SS席12,000円/S席10,000円/A席 8,000円

(SS席は鯉沼ミュージックのみの取り扱い)

*未就学児童のご入場はご遠慮下さい。

主催:読売新聞東京本社

協力:日本航空/ユニバーサル クラシックス&ジャズ/ビデオアーツ・ミュージック

TOUR

<大阪公演>2007年5月3日(木・祝) 開演:19:00

会場:大阪フェスティバルホール お問合せ:キョードー大阪 06-6233-8888

<横浜公演>2007年5月6日(日) 開演:19:00

会場:神奈川県民ホール お問合せ:KMミュージック 045-201-9999

2005年9月に行われたNYカーネギーホールでのソロ公演を完全収録
《カーネギーホール・コンサート》 UCCE-1079/80 (2枚組CD) ¥3,600(税込)
2006.9.27発売(予定)



チケット発売所

鯉沼ミュージック	03-3404-6890	CNプレイガイド	0570-08-9900(発売日特電)
東京文化会館チケットサービス	03-5815-5452(4/30・5/8公演のみ)		0570-08-9999
チケットびあ	0570-02-9920(発売日特電)		http://www.cnplayguide.com
	0570-02-9999	ローソンチケット	0570-084-632(L不要・発売日特電18時まで)
	0570-02-9966(Pコード:234-221)		0570-084-003(Lコード:38479)
イープラス	http://eplus.jp	楽天チケット	http://ticket.rakuten.co.jp/

キース・ジャレット夫妻撮り下ろしの写真による豪華公演プログラム作成決定!!

キース夫妻本人にしか撮れないオフショットなど未公開写真が満載!売り切れ必至。乞うご期待

www.koinumamusic.com

川上さとみ

深い響きと、 本音の生き方。



「川上さとみ」という個性

Text by Anri Suetsugu

彼女の2枚目はオリジナル中心の構成だとしても、さほど間隔を空けないうちに発表されるだろう。そんな予感が的中した。川上さとみ (p) の2nd アルバム『スウィートネス』、昨年7月リリースのデビュー盤『ティアラ』から1年2か月ぶりの待望作である。“早熟の天才的少女”と騒がれながら、売らんかなの妥協を強いられるオファーを幾つも固辞。「満

を持して」の1stアルバム『ティアラ』にはキャリアに裏打ちされた自信や落ちつきと同時に、(自らデビューを遅延させたぶん)一枚では到底取りきれない溢れんばかりの創作意欲が、その未知の音色が全10曲を聴き終えたのちも余韻として鳴り響いているような錯覚を覚えたものだ。ゆえに2枚目の早期登場を予感したわけだが、前作では〈アローン・トゥゲザー〉と〈時さえ忘れて〉の2曲以外、8曲をオリジナル作品で勝負した川上さとみ。今回は「サウンド・チェックの際にもよく弾く」という〈クレオパトラズ・ドリーム〉や「ライブでもよく演っている」らしい〈アイ・シュッド・ケア〉等、名匠パド・パウエル作品2曲と彼の愛奏作2曲を選曲。6曲のオリジナルと並べてみたが、その相乗効果というかアルバム一枚の統一感は前作以上に増している。

『ティアラ』を出してみて? もちろん出さないうちは出したほうが良かったし、(存在と才能を)認めてくれる人たちが段々と増えているという手応えは感じますね。女性ピアニストだからとか、そういう表面上の好奇心からではなく、音楽的にハマっているという目つきの人たちが増えていると思う時もある(笑)。好きな人はそれぞれ毎回、ライブ日程が続いていても追っかけのように来てくれますからね」

音楽に関するメールでの感想や意見も当然増えたという。「皆さん、音を聴いていろいろなコトを想像なさるみたいで…この曲の場所はどこであるとか(笑)、最初から自分の思い描かれた“風景”の描写を延々と説明なさっている方もいますし。意外と多いですよ、そういう方が。私のオリジナルを聴いて、情景を想像したりして、その場所に自分を置いているんですよ。その想いを確実に伝えたいから、という感じでメールをくださる方もいますから」。曲想が総じてロマンティックであるという点は本人も「ですな」と認める特徴だが、きれいに流されるだけではなく強度を秘めている点も川上流である。

「ロマンティックに弾かなければいけないとか、そういう狙いみたいものは全然ないんで

すよ。ステージにしても“こうすればきっと喜ぶだろう”なんて一生懸命考えるみたいなことは正直、一切ないですね。決して我がままに、まるで他人のことを考えずにというわけではないけれども…“こうすれば喜ぶだろう”なんて最初から嘘のような気がするし、そういう不自然な考えは嫌いですから。音楽というよりは“音”の鳴るまんまという感じだし、まずもって何よりも自分が気持ちよくなないとね。だから演奏する前にも出来る限り良い環境を望むわけですし、不味いよりは美味しい珈琲を飲みたいですから(笑)」

一切の加工を施していない本人談だが、ここに「慢まじさ」や「驕り」を読む本誌読者は皆無だろう。

「産みの苦しみ、ですか? ないですね。曲を書く時も構えませんし。以前に一度、曲を書く人同士で話をしたことがあるんですが、その方の場合には『凄く困ってしまう。今、自分が書いた曲は誰かの何々って作品に似ていないか…って思っってCDを聴きなおしたりする』そうなんです。ああ、発想の根本が自分とは違うんだなあと思ったし、そんな姿勢で作曲していたらそれこそアタマがおかしくなっちゃうだろうし。なんか食べたくない御飯を無理して作るみたいだね(笑)、そんな気がしましたね」

たとえば今回のタイトル・チューン〈スウィートネス〉にしても「書いたのはかなり昔。以前からアルバムに入れたいと思っていた曲で、もちろん『ティアラ』の時にも候補としては考えましたが、これはこれを出したいと思った作品なので」本作の冒頭に飾ったという。そんな話を聞けば聞くほど、次回作のリリースも遠からぬ未来のことに思えてくるのだが? 「曲はストックしようと思って書いてはみせんが、アルバムの枚数は別ですよ。生涯で必ず何枚創るとか数は決めていませんが、やはり一枚出したからには出来る限り残したい。もう、こうなった以上、それは“生きている証拠”ですよ、アハハ」。かつて天才の少女と呼ばれた川上さとみ、大人になるまで待ったぶん、作品の中身は濃くて、深い!!



スウィートネス 川上さとみ

M&I MYCJ-30395 ¥3,000(税込)
2006/9/20 Release

ゆらぐ想いをただこころのままに…
更にしなやかに、更に凛として第2作

- 01. スウィートネス
- 02. ダイヤモンド・メモリーズ
- 03. イエスタデイ
- 04. シリア
- 05. アイ・シュッド・ケア
- 06. トゥー・フェイス
- 07. クレオパトラズ・ドリーム
- 08. グロリオサ
- 09. マジェスティック
- 10. リメンバランス

■パーソネル
川上さとみ (p)
上村信 (b)
原大力 (dr)

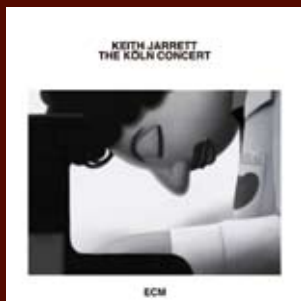


ティアラ 川上さとみ

M&I/Marshmallow MYCJ-30339 ¥3,000(税込)
Now On Sale

- 01. インサイト
- 02. R
- 03. アローン・トゥゲザー
- 04. ティアラ
- 05. ディア・ペアー
- 06. オールド・ローズ
- 07. カメラ
- 08. エモーション
- 09. 時さえ忘れて
- 10. ミステイ・ストリーム・アンド・ストーン

■パーソネル
川上さとみ (p)
安か川大樹 (b)
原大力 (dr)



メリル、ペイカー、マイルス、モブレイ、ウイントン、ショーターと続いて、今月号の表紙は初のピアニスト画！
タジマ画伯は自らトランペットを嗜むのでペット奏者が多いのか!?

タジマ音楽堂

連載7

何度書きましたが「タジマ画蒐集」希望を筆頭とする「バックナンバーが欲しい！」とのリクエストには応じられません。理由は各号の残部が美質ゼロだからであります。よろしく。

絵と文
タジマヤスタカ



ポートレート・イン・ジャズ
ビル・エヴァンス

あつという間にもう秋ですね。秋と言えば〈枯葉〉ですね。ベタですね。ヒネリというものが無いですね。ごめんなさい。と言うわけで〈枯葉〉つながりで、この曲はたくさん名演、名唱がありますが、ジャケットを描く事を考えつづこの3枚。

ビル・エヴァンス (p)、スコット・ラファロ (b)
ポール・モチアン (ds) 1959年録音

ピアノトリオの〈枯葉〉の中ではやっぱりこのアルバムが一番人気があるのかな？ この3人が残した数少ないスタジオ録音の2枚のうちの1枚ですね。〈降っても晴れても〉、〈ホエン・アイ・フォーリン・ラブ〉、〈いつ

か王子様が〉などスタンダード中心の選曲。

〈枯葉〉は2、3曲目。ステレオ、モノラルの2つのテイクが入っていますね。ちょっとトリッキーなイントロからテーマの後、たたみかけるようなスイング感の中で丁々発止の掛け合い、さまざまなアプローチ、この3人ならではのスリリングに美しくカッコいい演奏。ホント、この3人は新しい音楽を生み出していますね。

〈恋とはなんでしょう〉もカッコいいし、最後を端整に締める〈ブルー・イン・グリーン〉もいい。しばまであんこたつぶりって感じで、最後まで聴く者の耳をそらす事はありません。久しぶりに聴きましたがあらためて、名盤だなあ。当たり前か。ジャケット写真は端整で申しと過ぎているのでちょっとイタズラ。



ボス・テナーズ
ジーン・アモンズ

シカゴのテナー親分、ボス・テナーことジーンアモンズ。アルバート・アモンズの息子さんですね。どしりと腰の座った、太くキレのいい音でゆったりと。ドでかいアメ車にでも乗って葉巻とかくゆらせながらシカゴの街をゆっくり流しているかのような感じ。ちょっとホンカー風味な泥臭いフレーズもあっけらかんと屈託なく吹くので気持ちいい。落ち着いた、品格あふれる下品さです。さすが親分！ 一般の人が持つてゐるテナーのイメージってこんな感じじゃないのかなあ？

ソニー・スティット (as,ts)、ジーン・アモンズ (ts)
ジョン・ヒューストン (p)、チャールズ・ウィリアムス (b)
ジョージ・ブラウン (ds) 1961年録音

何度となく共演しているスティットとのバトル物。と言ってもそんな激しいバトルがバリバリと繰り広げられているわけではなく、気の合ったオジサンたちが楽しみながら語らっている風のアルバムです。

〈枯葉〉は3曲目。ひたひた結構落ち着いた演奏です。この曲はスティットもテナーで。楽しそうに、さしつさされつな感じでバース交換しながらテーマを吹く二人のボス。淡々としながらも内にこもる熱が時々ぶっつと顔を出すアドリブにドスの効いた凄みが。1曲目の〈ノー・グレーター・ラブ〉とかも秋の高い空に似合う感じのいい演奏ですよ。二人の息もゆったりびったり。

この録音の翌年にはアモンズはおクスリ関係でおよそ8年の「長のお勤め」に。ごくろうさんです、親分！



スタンダード・タイム Vol.1
ウイントン・マルサリス

わりと新しめのやつを。と言ってももうこれも20年近く前なのか…。まだレコードだもんね。若いジャズファンにとってはもうこの辺ももうクラシックなのかな？ 〈キャラバン〉、〈4月の四月〉、〈チェロキー〉、〈フォギー・デイ〉…昔から演奏されてきたスタンダードの数々。ウイントンの「私はスタンダードをこういう風に料理してみました」的なアルバムですね。

ウイントン・マルサリス (tp)、マーカス・ロバーツ (p)
ボブ・ハースト (b)、ジェフ・ワッツ (ds)

1987年録音

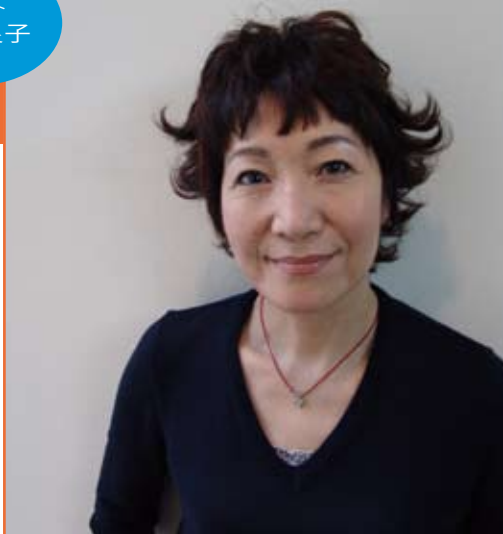
ここでの〈枯葉〉は猛スピード。テーマのバックのテ

ンポの取り方に色々と変化をつけています。このアルバム全体的にそうなのですが、アレンジでカチャカチャと色々やるわりには、なんかパズルのピースがうまくはまってないというか、うまく着地が決まってないというか、初めて聴いた時には「意味ねえじゃん、しゃらくせえ」とか思ってジャケット写真のスカした表情のウイントンにまでムカついたものです。ですがこの録音の後出たライブ盤の「ブルース・アレイ」等で演奏しているのを聴くと、もっとよくこなれていてカッコいい感じになっていました。同じスタイルでやってるんですが、バックの合わせ方とかももっと簡潔になり、テンポに変化をつけたりしているのもうまく効いて、なるへそ！ とか思った。そちらのほうも合わせて御賞味くださいませ。

J A Z Z への扉 Vol.9

宴会で鍛えた
〈ムーンライト・イン・ヴァーモント〉

ゲスト
森山良子



今回は島田歌穂さんからの紹介で、超多忙な森山良子さんに御登場いただいた。取材場所は彼女が所属する金子洋明事務所。家族・親戚に音楽家多数で、生まれた時からジャズに囲まれた環境は、前回の島田歌穂さんと相通じるものがある。フォーク・シンガーとしてデビューし、“日本のジョーン・バエズ”というキャッチ・フレーズで語られた森山さんが3年前に発表したCD『ザ・ジャズ・シンガー』は、デビュー以来何と69枚目のアルバムだ。その森山さんにジャズに対する想いを語っていただいた。

父はジャズ・トランペッターで、叔父(ティープ・釜沼)がジャズギタリストで歌手というジャズに囲まれた環境で生まれ育ちましたので、小さい頃から「私は歌手になる」と当たり前のように決まっていたし、そのことは家族全員が暗黙のうちに了解していたようです。

ですから、小さい頃、いつも家の中で私が歌い始めると、父が発音をとても厳しく注意したり、母も、そこはちょっと音程がフラットしているわよなどと歌う度にかなりうるさい親でした。ただ、ジャズ歌手を目指していたわけではなかったの、中学に入学してからは、声楽を習いに行ったり、叔父に1001でスタンダードを習ったり、友だちとカントリーをやったり、何であれ、音楽に浸っていたら気持ち良かったので、勉強をほったらかして好きなことばかりやっていたわけです。

高校時代に先輩の黒パン(黒沢久雄)に誘われてバンドに加わってフォーク・ソングを歌い始めました。

本当はジャズをやりたいんですけど、フォークソングばかり続けるとスリー・コードだけでつまらないし、メロディーに束縛されて自由に飛んでいけないので、ジャズっぽいものも歌ったりしました。昔からコンサートでは時々ジャズも歌っています。〈ムーンライト・イン・ヴァーモント〉は、中学時代、叔父にジャズを習っていた時に、1001の中から教えてもらい、なんて美しいメロディーなんだと最初に大好きになった曲です。

なにしろ、私自身のジャズ入門は、全部叔父が譜面とギターで教えてくれたものなので、後から誰がどんな歌い方をしたかというのをレコード

で知ることになります。

ビッグ・バンドものは父がいつもレコードをかけていたので、トミー・ドーシーとかグリーン・ミラーとか、エリントンとかは耳に入っていました。

それに、かまやつ家に遊びに行くと、かまやつと遊んでいると、隣の部屋から、叔父の生徒さんたちの演奏や歌が聞こえてくるんです。その中には弘田三枝子さんとかベギー・葉山さんとかもいらしていたようです。

そんな、扉越しに聞こえるレッスンの歌声をBGMにおままごとをしていました。

色々なメロディーをその時に耳で覚えたので、大人になってから、子供の頃耳馴染んでいたスタンダード・ナンバーの多くが、ミュージカルから生まれたことを知りました。

3年前に出したCD『ジャズ・シンガー』の選曲をしている時に、絶対〈ムーンライト・イン・ヴァーモント〉を入れたかったので、それまでは他人が歌っているものを全く聞いたことがなかったのに、他の方はどんな風に歌っているのかを知りたくなり、初めてCDを聞いてみました。

もともとは、ツアーに行った先々で、二次会でライブ・ハウスに遊びに行くと、一緒にやっているミュージシャンはジャズが好きな人たちばかりですから、〈ムーンライト・イン・ヴァーモント〉歌いま〜すって自分から宣言して歌ったりしていました。そうやって宴会で修業を積んで自分のものにしてきたのかも知れません。(談)

編集協力：ピンポイント

森山良子略歴

1948年、東京生まれ。日本ジャズ界のバイオニア森山久の長女。1967年(この広い野原いっぱい)でデビュー。その後、三原邦子(禁じられた恋)をはじめ〈涙そうそう〉(さとうひづる)〈あなたが好きで〉など、数々のヒット曲を生み出す。透明感のある歌声と歌唱力で、名実ともに日本のトップシンガーに。国内にとどまらずニューヨークカーネギーホールロサンゼルスドイック・フランクリン、韓国など海外でもコンサート活動を続ける。2004年5月には、ジャズアルバム『The Jazz Singer』を引上げ、名門NYブルーノートをはじめとするライブハウスをまわる「Ryoko Morioka US Jazz Live Tour2004」を行ない、好評を博す。デビュー40周年を迎えた今年、「森山良子コンサートツアー2006〜2007」で全国ツアー中。NEWアルバム『Tears〜森山良子韓流アルバム〜』を好評発売中。

コンサートスケジュール

森山良子コンサートツアー 2006〜2007

- 09/29(金) まつもと市民芸術館
- 10/01(日) 綾瀬市文化会館
- 10/09(祝月) 長岡市立劇場
- 11/04(土) 大宮ソニックシティ
ほか、全国ツアー中

お問合せ： 森山良子ファンクラブ
03-3350-6127
<http://www.ryoko-moriyama.jp>

e-onkyo.com
music store

High Definition Sound HD

秋吉敏子

音楽生活60周年記念企画

オーディオメーカーのONKYOが運営する高品質音楽配信サイト[e-onkyo music store]と日本クラウンの共同企画



指先から鍵盤へ、彼女が込める思いまで聴こえてくるようだ。

こだわりの音質 24bit96kHz で聴く、日本が世界に誇るジャズピアニスト 秋吉敏子の世界

高品質音楽配信実現のために、レコーディングエンジニア・行方洋一氏によるスペシャルチューン! 今回の配信のために特別にアソートされたベストセレクションを含む13タイトルを順次配信中!

HD高品質音楽配信サイト

e-onkyo music store

<http://music.e-onkyo.com/>

うたがうたとして、 うたを聞きなおす。



ジントーランド 大工哲弘 & ちんどん通信社

01. シャボン玉 [IN]
02. 一かけ二かけ (西郷隆盛娘です)
03. 荒磯の歌
04. 東雲節 (ストライキ節)
05. 船頭小唄
06. 煙草のめめめ
07. あの町この町
08. 雨降りお月さん
09. 砂山
10. 汗水節
11. 馬賊の唄
12. 八重山農林高等学校 校歌
13. 影法師
14. 可愛いスーちゃん
15. 満鉄小唄 (雨ジョボ)
16. シャボン玉 [OUT]

[パーソナル]
大工哲弘：Vocal, 三絃
ちんどん通信社：
林幸治郎 (Chindon, Trumpet, Cornet, Cymbals)
小林信之介 (Clarinet, Tenor Saxophone)
ジャージ川口 (Banjo, Grosse Caisse, 締太鼓)
花田雅史 (Soprano Saxophone, Chindon, Grosse Caisse)
河村光司 (Tuba, Euphonium, Alto Saxophone)
小林寛明 (二胡, Grosse Caisse, Cymbals)
林進代 (Chindon, Grosse Caisse
TAMA Accordion)
岡奈那 (Trumpet, Grosse Caisse)

船戸博史 (Contrabass)
畑田博喜 (Alto Saxophone)
岩淵理緒 (Clarinet, Percussion)
橋本剛秀 (Bass Clarinet)
戸次和歌子 (Trumpet)
古池寿浩 (Trombone)
渡辺勝 (Piano, Hammond Organ)
向島ゆり子 (Mandolin)
山田吉育 (Blues Harp)
川崎舞也 (Electric Guitar)

音楽隊：
中尾勲二 (Soprano Saxophone, Snare Drum)
関島岳郎 (Ukulele, Pianica, Recorder, Sine Wave, Percussion, 口琴)

オフノート
ON-58 ¥2,625 (tax in)
2006/7/23 Release

はたしてこの誌面に相応しいかどうかはわからない。わからないけれども、とりあげたいという気だけは一聴して、つよく、あった。

大工哲弘、高名な歌い手である。八重山民謡の第一人者であり、98年には沖縄県無形文化財(八重山古典民謡)保持者に指定されている。

これだけ見ると、そうか、沖縄の歌い手さんなんだ、と通り過ぎてしまいかもしれない。が、はるかにその歌には広がりがあるのだ。鳥唄のレパートリーを越え、ジャズやロックや、さらには日本以外の世界音楽・民族音楽の人たちと共演、リスペクトされている。

新譜は、うたとともに「ちんどん」が共演。さらにさまざまな音楽家が入りする。収められているのはよく知られたものばかり。全16曲、最初と最後が《シャボン玉》。あいだに、とてもコミカルなものもあれば、鳥唄もあり、ちょっと艶っぽいものもあれば、懐かしい童謡がならぶ。《八重山農林高等学校 校歌》というのもある。どれも短いが、聴けばすぐに、すつとはいつていけるし、たとえ知らなくても、記憶に残る。シンプルゆえに心身と外界との膜を易々ととりぬける。《シャボン玉》にしろ《あの町この町》にしろ《雨降りお月さん》にしろ、こんなふうに、はつきりとした発音でうたわれるのをCDで聴いたことなど、なかったのではない。いつのまにか知っているけれども、歌い手がうたうのをじっくりと聴く機会はない。

とはいえ、ああ、おもしろいなあ、楽しいなあ、どこかつかしいなあ、と感じながらも、そう感じている心身をどこか別のところで眺めている自分もいる。たしかに童謡は知っている。親しんでいる。長いことそんなうたがあることも、耳にしたことも、ほとんどなかったけれど、ずっとどこかに持っていた。その持っていたものが、蓄えてきたものが、はたしてどこから届けられたものなのか、そもそもどこからやってきたものなのか。

もちろんここで、日本における西洋的な音のならば明治期に音楽取調掛によって云々とか、ヨナ抜き音

階がどうかと言うこともできよう。そのうえで、でも、歴史的なことや制度的なことを持ちだしてアタマでわかつたようなことを言うよりも、いま感じている懐かしさや親しみや、あるいはちょっとうざったいという感覚、いやだなと鳥肌がたつたりするかもしれない感覚が、日本の童謡や沖縄の鳥唄やチンドンや、といった音の複合体に接するなかで、どうなってしまうのか、どこに運ばれるのかを見定められたらと思ったりする。

さらに、じっくりと耳をかたむける。そして意味も考えずに耳にはいつてきた子どもの頃と違つて、少しは何かを考えたりするようになる。と、どうだろう。あのシャボン玉とは何だったのか。雨が降っているからお月さんは雲のかげになつているのはあたりまえだが、それとお嫁に行く話がドッキングされるニュアンスとはどういふものか。等々、大工哲弘の正面からぐんぐんとやってくる声と、鉦と太鼓のチン・ドン、そのあいだを縫うクラリネットと、低音の「ぶ」「ぼお」というテューバが、CDを聴いている「21世紀」の時空をどこか別のところにつなげてしまふ。

大工哲弘が意識してかしないかわからないけれども、歴史とか場所とか、自分(たち)の抱いている記憶とか感性とか、言葉とか共同性とか、そうしたものを鳥唄のレパートリーを越えて掘え始めたのはいつころからだろう。わたしの記憶としては、90年代後半「チバリョーウチナー(がんばろう沖縄)」の頃、さらに「ウチナージントー逢業行」で決定的になつた。こうしたアルバムにおいては、うたはうたでありながら、うたを聞いかえすものであり、ただ時間とともに耳にはいつては抜けてゆく音楽がちよつと立ち止まる、立ち止まらせるものとしてはたらく。

ジャズやクラシックのあいだに、大工哲弘を聴く。「音楽」とそのありかを考えなおす格好の清涼剤となる。オフノート、いいレールである。ちゃんとした仕事をしている。でも、もっと宣伝してもいいんじゃない? ね、神谷(プロデューサー)くん。



Impression of Tristano

ヘタクソ

第五回

前回で、テナーの橋爪亮督が加わりバンドのメンバーが揃うところまで話が進んだので、少し趣向を変えて、自分自身のことについて、どういう経緯でジャズを演奏するようになったのかについて書きたいと思います。今回はトリスターノのトの字も出てきませんがご容赦下さい。

大学時代は様々な大学の生徒が入居している学生寮に住んでいたのですが、そこに現在指揮者として活躍している齋藤一郎さん(N響の副指揮者も務めた)という先輩がいて、僕は先輩のバシリというか子分としてつきあっていました。ある時その齋藤先輩が突然「バンドをやるぞ」と言い出したため僕もギターで参加することになりました。バンド自体はプログレやフュージョンに影響されたような、学生バンドらしい感じでしたが、大学からギターを始めた僕(高校時代はエレキベース)では、クラシック・ピアノで長年鍛えた音大生の先輩には全然ついていけませんでした。

「俺と一緒に演奏するならプロを目指す位の気合を入れてやれ」と怒られ、「そんなこと言われても俺は趣味でギター弾いているだけなんだけどなあ…」とぼやきながらもバンドをやるのが面白くなり、ますますギターにのめりこんでいきました。

先輩に新宿ピットインやアケタの店にライブを聴きに連れて行かれたり、エレクトリック・マイルスや、当時流行っていたジョン・ゾーンのネイキッド・シティなどを聴いたりしているうちに徐々にジャズに興味が出てきました。教則本や理論書を買って練習して

みたものの何が書かれているのかさっぱりわからず、独学では無理そうだし誰か上手い人にジャズ・ギターを習おうと思い、紀伊国屋裏(当時)のピットインに色々なギタリストの演奏を聴きに行きました。

ピットインは先鋭的なサウンドのバンドが多かったこともあり、エフェクターを使ったロックっぽいスタイルのギタリストがほとんどな中で、珍しくフルアコをアンプに直結した正統派なスタイルで弾く、高嶋宏というギタリストの演奏が特に強く印象に残りました。この人に教わりたいと思い、3度目に聴きに行った後、「ギターを習いたいのですが…」と頼み、週一回、個人レッスンで教わることになりました。

いざレッスンに通い始めると、自分のヘタクソさを嫌うほど思い知らされました。譜面はまったく読めない、コードネームもよく解らないといった状態で、同時期に入門した他のお弟子さんたちにどんどん引き離されていきました。コードやスケールを教わり、レコード、CDをコピーしても、コード進行に付いていけず、一向にアドリブができなかったのです。しかしながらこの時期に高嶋先生からみっちり基礎や理論を教わったことが、現在非常に役に立っていると思います。

習い始めて1年が経ち、少しは上達の兆しが見えかけた頃、練習のしすぎや演奏フォームの悪さ(左手に力が入りすぎていた)もあって、左手がひどい腱鞘炎になってしまいました。弦を押さえられないほどの痛みで、結局しばらくの間ギターを弾くことをあきらめなくてはなりませんでした。

(以下次号)



LIVE スケジュール

● 9/17(日) PM8:00

新宿 PIT-INN(夜) ¥3,000

平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、蛸子健太郎(B)、竹下宗男(Dr)

…初めて夜の部に出演します。翌月曜も休日ですのでぜひ。

● 9/26(火) pm 7:30

吉祥寺MEG

平井庸一(G)、都築猛(P)、蛸子健太郎(B) これまたスケジュールの穴埋めで急遽出演することになりました(穴埋め要員)。ジミー・ジュフリーの曲もやるかもしれません。

● 10/20(金) pm 2:30

新宿ピットイン(昼)

平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、橋爪亮督(Ts)、海道雄高(B)、竹下宗男(Dr) 蛸子健太郎(B)、メンバーが全員揃うのは久しぶりです。

【ひらい・よういち】…ギター奏者／1970年東京生まれ。大学時代に高嶋宏にジャズ・ギターを師事する。キャバレーのハコパンでの修行を経てライブ活動を開始。使用楽器は、オールドのGibson ES-125とシャウウッドギター特製セミアコ・バリトンギター。

名前ではなく音を。 目ではなく体で。



text by hanao (JJazz.Net)

「だれか、定義をください」と、思うことがたびたびあります。定義さえあれば、この曖昧なものがすっきりして、ものごとが整然とするのに、と。ジャズ、というのも、定義が欲しくなりがちなことばのひとつです。示す範囲の広いような、狭いような。ことばは遣い手のひとりひとりや時代ごとに意味を異にするもの、ではありますやがはり、ジャズとは何だろう、というのは答えのない話です。

そんな折も折、単純明快な答えが見えそうなイベントが生まれました。“the Shape of Jazz to Come - NEW JAZZ 2006”。リアルジャズとクラブジャズのアーティストを一堂にあつめ、ひっくるめて楽しむ一夜に、今のジャズ、を見いだそうという試みです。JJazz.Netの無料番組“AVENUE”で放送している、イベントプロデューサー小林径氏のインタビューで、その斬新かつシンプルなコンセプトを知ることができました。彼は語ります。カテゴライズの孕む危険や、音楽そのものについて。

カテゴライズすること、ジャンルに名前をつけること。それは一見とても便利なようで、反面おそろしく出会いを阻害するものです。「ジャズだから」「ジャズじゃないから」といったふうに、音ではなくジャンルの文字で、忙しい人たちは音をピックアップしてしまいがちなここ最近だからこそ、このイベントにはとてつもない意義がある、と私は思います。広い意味のジャズと呼ばれる音をすべて集めて、いっぺんに楽しんでみれば、名前ではなく音を、目ではなく体で、知ることができるからです

名前ではなく音を。目ではなく体で。

そういえば、もし音楽が完全にジャンルで棚分けされていたら、作品の全てに出会うことはきっと叶わない、と思うアーティスト、清水靖晃氏のインタビューが手元にあります。「清水靖晃」という一人の人間の生み出す音は実に様々で、あるものはジャズ、あるものはニューエイジ、さらにあるものはロックと表されています。いまJJazz.Netでは、彼を特集した番組を放送しているのですが、ずらりと並べて聴いてみれば、そこにはジャンル名などといった甘たいものの入る余地などなく、ただ数々の音をして「清水靖晃」が見えてくる。そのことが自ずと知れます。

名前というコンビニエントなものに頼らずに、音楽に出会いたいならば音を、いちいち聴いてみればいいのです。世界をリアルに感じて、選んでいくには、裏を返せばそれしかないと思います。その機会はこの秋も、わたしたちの前にはしっかりと在るのだし。



internet radio station
JJazz.Net
Japan Jazz Network

大切なものに出会うために

その人にとって大切な音楽は、忘れられない新しい出会いを作ります。
大切な音楽。大切な人。大切な想い。

最新番組が無料になりました!

最新番組が、無料でお聴きいただけます。
トップページからお楽しみください。

"AVENUE"リニューアル!

新譜やライブ情報など、ニュース満載の情報番組。
クラブDJ小林径、サックス矢野沙織インタビューも放送中。

常時約500曲・全12カテゴリ >>>

www.jjazz.net

裏方に徹する美学

text by 沼田 順

美音堂 市川重樹

あなたへ 浜田真理子

美音堂 SFS-003 ¥2,625 (税込)
2002/10/20 Release

- | | |
|--------------------|----------------|
| 01. 純愛 | 06. あしくび |
| 02. 理由 | 07. 四十雀 |
| 03. Fruitless love | 08. 聖歌～はじまりの日～ |
| 04. 月に聞く | 09. あなたへ |
| 05. 月の記憶 | |



ジャズの皆様におかれましては、島根在住の浜田真理子というシンガーをご存じでしょうか？ ご存じない方、もしくは名前を聞いたことあるけど、歌は聴いたことないという方は今すぐにレコード店に走って聴いていただきたいと思う。そして彼女の歌の力強さに打たれてほしいと思う。大友良英が彼女の歌の魅力に取りつかれ、今回新作をプロデュースした。このアルバムは11月に発売される。発売元は美音堂。代表は市川重樹。というわけで、今回はジャズと真ん中のレーベルでは全くないのだが、ジャズ好きの方のハートをも打つであろうシンガー、浜田真理子をリリースしている美音堂の市川重樹に話を聞いた。

美音堂の設立は2002年3月。元々コンサート制作の仕事をやっていた市川も浜田の歌に取りつかれ、独立して会社を立ち上げた。最初のリリースは浜田が島根の自主レーベルからひっそりと出していた『mariko』の再プレスと『純愛』のシングルCD。

「浜田さんは当初自分の需要と供給のバランスが取れてないと感じていたんです。そこをバランスを取ることを美音堂でサポートすべきだと思った。」2001年11月に下北沢・レディジェーンのオーナー大木雄高が仕掛けたライブ@吉祥寺スター・パインズ・カフェは大入満員。それほど名が知れていないのにこんなに観客を動員できる彼女の魅力に彼女自身も市川も戸惑ったという。こんなに聴きたい人がいるのに聴かせられないというジレンマ。

浜田真理子の大ブレイクはTBSのTV番組『情熱大陸』だった。ご覧になった方も多いと思うが、放送直後の美音堂の多忙さは尋常ではなかったという。「もうね、一日にバックオーダーが★,000枚ですよ！徹夜で梱包して翌日タクシーで通販の大量の発送分を抱えて郵便局に行っただけ。ある程度予測はしていたものの、これでもかかっていうほどの反響だった(笑)。TVの影響力って改めて凄いなーと実感しました。」そういう嬉しい悲鳴がありつつも、市川の、レーベルに対する考え方は変わらなかった。「元々コンサート制作の仕事をしていたので、レーベルって実はどこのレーベルだっていいんですよ。僕は浜田さんの音楽活動のサポートに徹することをやりたいんです。レーベルというのはあくまでその中の一つであって。」

浜田真理子のコンサートの客層はバラバラだ。著名人たちもわざわざ浜田の歌声を聴きに来るし、多くのミュージシャンも浜田を絶賛する。つまり浜田は「ミュージシャンズ・ミュージシャン」といったマニアックな存在ではなく、老若男女の心を揺さぶる何らかの力があると言っていていいだろう。そんな浜田の魅力を生かすために、つまりCD作品として伝える際にはやはり細心の注意を払って仕上げなければならない。「僕が浜田さんのCDを作るときに心がけていることは、時代性を感ぜさせないということ、つまりなるべく生楽器で、人工的なリバーブなどのエフェクターをかけず、浜田さんの歌の力をなるべくそのままパッケージすること、この部屋で浜田さん

が歌っているような感じを出すことを心がけています。」その意図を完遂するため今回プロデューサーとして白羽の矢を立てたのが大友良英だった。「誰かと一緒に作ったほうがいいと思ったんです。大友さんはこちらの意図を、僕が思う以上に分かってくれた。全てワンテイクでOKだった。信じられなかった。」録音の日にはちょうど東京にいなかったがリハーサル/ミックス/マスタリングには実は私も立ち会った。素晴らしい作品が生まれる瞬間に立ち会えた。浜田の歌の力と大友のプロデュース、そして市川の意図が見事に合致した瞬間だったと感じた。

「僕一人じゃないんですね。結局まわりの人の支えがとても大きい。それで僕もやって行けるようなもんで、やっぱりあくまで僕はCDを売るといよりもミュージシャンを売ってゆくというマネージメント指向ですから、当然それはレーベルにも反映させる。新譜だけじゃなくて旧譜も売り続けていかなければいけないなーと思うんです。」

11月に出る新譜に乞うご期待！私はいち早く聴かせていただきましたがハッキリ言って大傑作、感涙必至です。ジャンルを問わず心をつつ歌の力は頑ななジャズファンをも唸らせるはず。最後に浜田真理子からのメッセージ@電話。「沼田さん、取材してくれるんだって？私の音楽はパンクだって書いていてね。あははは。よろしくー。」パンクのあんちゃんも浜田真理子を聴くべし！（AERAにはフォークシンガーって書いてあったよな…）。

Jazz Today®

NEW DISC INDEX

レディ・ビー・グッド

ルー・レヴィ・トリオ

Inter Play/M&I MYCJ-30397 ¥2,200 (税込)
2006/9/20 Release



底知れない音楽の深さを感じさせる。ピアノが優しい、そして何よりもジャズ。ピアノ・トリオの名盤の名に恥じない作品である。

01. Tempus Fugit / 02. Shining Sea / 03. Emily
04. Ar-Too-Three-Too / 05. Countdown / 06. Very Early
07. Lady Be Good / 08. Freedom Jazz Dance

Lou Levy (p)
Fred Atwood (b)
John Dentz (ds)

ギルズ・ムード

ギル・コギンス・トリオ

Inter Play/M&I MYCJ-30396 ¥2,200 (税込)
2006/9/20 Release



“ギルズ・ムード”のタイトル通りギル独特の香りが発酵するピアノ・トリオ! インタープレイ・レーベルならではの、ひと味違うピアノ・トリオ作品。

01. Gil-Meir Blues / 02. Just One Of Those Things
03. My Shining Hour / 04. Smooch / 05. Isn't It Romantic?
06. Jilene / 07. In Your Own Sweet Way / 08. Pensativa

Gil Coggins (p)
Calvin Hill (b)
Leroy Williams (ds)

ジス・ワンズ・フォー・ユー

エディ・グリーン・トリオ

Inter Play/M&I MYCJ-30398 ¥2,200 (税込)
2006/9/20 Release



新しいピアニストを発見する喜び! 骨太の隠れた名手が披露するジャズ・フレーズ。アメリカ・ジャズ界の層の厚さに驚かされる一枚である。

01. Unit Seven / 02. This One's For You / 03. In'n Out
04. Spring Can Really Hang You Up the Most
05. Jeannine / 06. All The Things You Are
07. Skeeter's Kitchen

Eddie Green (p)
Tyron Brown (b)
Jim Miller (ds)

ナウズ・ザ・タイム

アル・ヘイグ・トリオ

Inter Play/M&I MYCJ-30399 ¥2,200 (税込)
2006/9/20 Release



軽妙ながら深い。更にメロディアス。名手のアル・ヘイグならではのパウエル作品集。ピアノ・トリオ・ファンなら聴かずにはいられない!

01. Bouncing With Bud / 02. Celia / 03. Reets And I
03. Strictly Confidential / 04. I'll Keep Loving You
05. Dance of Infidels / 06. I'll Keep Loving You (Alternate Take)
07. Strictly Confidential (Alternate Take)

Al Haig (p)
Jamil Nasser (b)
Frank Gant (ds)

ア・ポートレイト・オブ・バド・パウエル

ジョー・オーバニー・トリオ

Inter Play/M&I MYCJ-30340 ¥2,200 (税込)
2006/9/20 Release



豊かな感情表現。孤高のピアニスト、ジョー・オーバニーの刺激たっぷりな隠れた名盤。しかもこの作品では軽快なスイングする。

01. Now's The Time / 02. Yardbird Suite / 03. Bluebird
04. Charlie Parker Blues / 05. Autumn in New York
06. Little Suede Shoes / 07. Billie's Bounce
08. Confirmation / 09. Barbados
10. They Can't Take That Away From Me

Joe Albany (p)
Art Davis (b)
Roy Haynes (ds)

リガーディング・スタンダード

中村健吾

55Records FNCJ-5518 ¥2,500 (税込)
2006/10/25 Release



前作「ROOTS」をさらに発展させ、アメリカが生んだ偉大なスタンダード曲にシャープなアレンジメントを加えた意欲作。

01. イッツ・オール・ライト・ウィズ・ミー
02. いつか王子様が / 03. イフ・アイ・シュッド・ルース・ユー
04. オール・ザ・ウェイ / 05. パーボン・ストリート・バラード
06. 懐かしのニューオリンズ / 07. 自由への賛歌
08. ステラ (オリジナル) / 09. ミッドナイト・ブルース (オリジナル)
10. オール・ザ・シングズ・ユー・アー / 11. ホープ (オリジナル)
12. この素晴らしい世界

中村健吾 (b) / マーカス・プリンタップ (tp)
テッド・ナッシュ (as, cl a-f) / ダン・ニマー (p)

スペシャル・ゲスト
小曽根真 (p.org) 1.7.11
クラレンス・ベン (ds) 6.7 以外全曲参加

DAY DREAM (A COLLECTION OF BLACK & SPIRITUAL JAZZ FROM NIMBUS RECORDINGS)

V.A.

THINK! THVA-1 ¥2,500 (税込)
2006/9/8 Release



KJM がセレクトしたブラック&スピリチュアル・ジャズ・フロム・ニムバス! 伝説的ジャズ・レーベルが残した、エモーションalde ビースフルなレア音源を沖野兄弟が完全コンパイル!! これぞ、NIMBUS ALL STARS!!

01. Mrafu/Nate Morgan
02. One Step Out/Creative Arts Ensemble
03. Question/Jesse Sharps Quintet
04. RETRIBUTION, REPARATION/Nate Morgan
05. Flashback Of Time/Creative Arts Ensemble
06. PEYOTE SONG NO.11/Pan Afrikan Peoples Arkestra
07. Leland's Songs/Linda Hill
08. Day Dream/Adele Sebastian
09. ASIKI/Gary Bias

ロシニョール

Maki Riko Duo

おーらいレコード ORCD-3001 ¥2,500 (税込)
2006/7/8 Release



その空気はきつとバリの空気なのだから。

01. Ypérité (NAKANO Maki)
02. Gary's Waltz (Gary McFARLAND)
03. Changement inopiné (NAKANO Maki)
04. Lumi. (GOTO Riko)
05. Halo de Manteau (NAKANO Maki)
06. Crubird (NAKANO Maki)*
07. War Orphans (Ornette COLEMAN)
08. Inférence (NAKANO Maki)

Riko GOTO-Piano
Maki NAKANO-sax alto & metal clarinet
René WOLF-contrabass

ノマド

ガトールリブレ

ONOFF MZCO-1103 ¥2,520 (税込)
2006/9/27 Release



カラダに優しい無添加音楽「淡々と、盛り上がりせず、つないでもしれない」・・・田村夏樹
世界を駆ける天然ラッパ吹き、田村夏樹率いる噂のアカコースティック・プロジェクト、ガトールリブレ(=自由な猫。野良猫!)の罪な2枚目。

01. 11月、クラフクにて / 02. 5月、グラスゴーにて
03. 2月、パリにて / 04. 6月、パルセロナにて
05. 8月、マドリードにて / 06. 9月、ベルリンにて
07. 4月、プラストにて / 08. 1月、ローザンヌにて
09. 12月、ゲントにて / 10. 10月、ヴェニスにて

田村夏樹: trumpet 藤井郷子: accordion
津村和彦: acoustic guitar 是安則亮: wood bass

レッツ・トーク・アバウト・ラヴ

ジョニー・ソマーズ

fab./Warner Bros. MZCF-1104 ¥2,625 (税込)
2006/9/27 Release



ジャズ・ヴォーカルを愛する人々の密かな楽しみ。それはジョニー・ソマーズのチャーミングな歌声とあどけない笑顔。トミー・オリヴァーのアレンジ、指揮によるフレッシュでスウィートなラヴ・ソング集。

01. レッツ・トーク・アバウト・ラヴ / 02. スプリング・イズ・ピア / 03. アイム・ノー・パディス・ベイビー / 04. サムシングス・カミング / 05. メイク・ザ・マン・ラヴ・ミー
06. アイ・キャント・ヒリーヴ・ザット・ユー・ア・イン・ラヴ・ウィズ・ミー / 07. テイル・ゼア・ワズ・ユー / 08. アフター・ザ・ライツ・ゴー・ダウン・ロウ / 09. アーズ・ノー・サッチ・シング / 10. ネームリー・ユー / 11. キス・アンド・ラン / 12. アイル・ネヴァー・ストップ・ラヴィング・ユー

ジョニー・ソマーズ (vocal)
トミー・オリヴァー・オーケストラ

anmi2

あんみつ

Village Music VRCL-3043 ¥2,940 (税込)
2006/9/20 Release



“心を包み込む、やさしく甘美なメロディー...”
T-SQUAREのギタリスト“安藤まさひろ”と盟友ギタリスト“みくりや裕二”による実力派アカコースティック・ギター・デュオ“あんみつ”が贈る、待望の1stアルバム!

01. シーズン※ / 02. チャイニーズ・スープ (荒井由実のカヴァー) / 03. ドント・ノー・ホワイ (ノラ・ジョーンズのカヴァー) / 04. 上を向いて歩こう / 05. マン・オン・ザ・ムーン (T-SQUAREのカヴァー) / 06. キャプテン・トラヴィス※ / 07. モンマルトル※ / 08. マッシュルーム※ / 09. スカボローフェア / 10. ビック・サンダー・アウンテン※ / 11. リヴァー・ウォーク※ / 12. オーバー・ザ・レインボー※オリジナル曲

安藤まさひろ
みくりや裕二

CLASSICS (T-SQUARE DSD リマスタリング・シリーズ第1弾)

ロイヤル・フィルハーモニック・オーケストラ

Village Music VRCL-2035 ¥2,625 (税込)
(オリジナル盤発売: 1992年11月) 2006/9/20 Release



ロンドンの名門【ロイヤル・フィルハーモニック・オーケストラ】が、T-SQUAREの名曲を演奏。発売当時、画期的なシンフォニックアルバムとして注目を集め、オリジナルサウンドトラックとしてフジテレビ系ドラマ『放課後』に使用され、好評を博す。「カピオラニの通り雨」は後に発売されるTWILIGHT IN UPPER WEST(《TAKARAJIMA》収録)のカップリング曲としてシングルカットされた。

01. OMENS OF LOVE
02. HEARTS
03. ALL ABOUT YOU
04. いとしのうなじ
05. カピオラニの通り雨
06. STIFF NAILS & ADVENTURES
07. FORGOTTEN SAGA

HARMONY (T-SQUARE DSD リマスタリング・シリーズ第1弾)

T-SQUARE&ロイヤル・

フィルハーモニック・オーケストラ

Village Music VRCL-2038 ¥2,625 (税込)
(オリジナル盤発売: 1993年8月) 2006/9/20 Release



《CLASSICS》に続き、ロンドンの名門【ロイヤル・フィルハーモニック・オーケストラ】との競演が実現した2枚目のシンフォニックアルバム。《TOMORROW'S AFFAIR》がフジテレビ系ドラマ『じゃじゃ馬ならし』のメインテーマとして使用された。

01. TOMORROW'S AFFAIR
02. PLAY FOR YOU
03. BANANA
04. MEMORIES OF ALICE
05. 明日への扉
06. GOD BY BLUE WIND
07. 君はハリケーン
08. TOMORROW'S AFFAIR (reprise)

TAKARAJIMA (T-SQUARE DSD リマスタリング・シリーズ第1弾)

T-SQUARE ウィズ・ミュンヘンシンフォニー・オーケストラ

Village Music VRCL-2041 ¥2,625 (税込)
(オリジナル盤発売: 1995年2月) 2006/9/20 Release



T-SQUARE 3枚目のシンフォニックアルバム。ロンドンコーディングによる【ミュンヘンシンフォニー・オーケストラ & シティオブロンドンウィンドアンサンブル】との競演は、前2作とは違った究極の仕上がり。「HEAVEN KNOWS」がフジテレビ系ドラマ『ヘルプ』のメインテーマ曲として使用された。「TWILIGHT IN UPPER WEST」は先行して1994年1月にシングル発売され、フジテレビ系ドラマ『幕末高校生』のメインテーマとして使用された。

01. HEAVEN KNOWS
02. 宝島
03. UNEXPECTED LOVER
04. カタロニアの岩
05. TRUTH
06. ハワイへ行きたい
07. TWILIGHT IN UPPER WEST (Re-Mix Version)
08. SWEET SORROW

Yae Live

Yae

Yae Project UENJ-002 ¥2,625 (税込)
2006/9/20 Release



歌手として母として...デビュー6周年の集大成がここに。故藤本敏夫・歌手加藤登紀子の次女であり、唯一無二の歌声で聴く者を魅了して止まないシンガー、“Yae”の待望の初ライブアルバムが完成!

01. My Dear
02. 恋の花
03. きがつけば
04. 風のみち
05. 月と海 (instrumental)
06. 長く伸びた影を追いかけて
07. RINGO
08. Is Fade Lion Uein (traditional)
09. 長い橋
10. Wa-ya
11. そらじゅうに神様 (God Everywhere)
12. 400年も昔から (From 400 years ago)

MIHO NOVA

ASABA MIHO

VME VGDWLF-0001 ¥3,000(税込)
2006/9/15 Release



ボサノバ界に新しい歌姫!! どこまでも透明な麻場美穂の
声に革新的なボサノバ・リズム。麻場美穂・小畑和彦・
水野正敏の不思議な絡みは絶品!

- 01. Close to You / 02. Agua de beber おいしい水
- 03. De safnado / 04. Triste 悲しみ / 05. O morro nao tem vez
- 06. Un homme et une femme 男と女 / 07. n sensatez
- 08. Chega de saudade / 09. Wave
- 10. The girl from ipanema イパネマの娘

Miho Asaba / Vocal
Kazuhiko Obata / Acoustic Guitar
Masatoshi Mizuno / Electric Bass

Recurrence

大森明

BOP CITY RECORDS BCCD-1002 ¥3,000(税込)
2006/7/20 Release



「吉業 New Tork へ魂の回帰 かつての盟友たちとのクラ
ボと書き下ろしの New Standards」

- 01. Conception (George Shearing)
- 02. City Lights (A.Omori)
- 03. Shun Sho (春宵) (A.Omori)
- 04. Ancient Park (A.Omori)
- 05. Pannonica (Thelonious Monk)
- 06. A Flower Is a Lovable Thing (Billy Strayhorn)
- 07. Mr. s Lullaby (A.Omori)
- 08. Goodbye JMc (A.Omori)
- 09. Nocturne Number II (A.Omori)

Akira Omori (Alto Sax) / Richie Vitale (Trumpet)
Tim Regusis (Piano) / Ari Roland (Bass)
Cliff Barbaro (Drums) / Engineer: Michael Brorby

ボンジュール・パリ

V.A.

NOVEL CELL POEM NCP-20012 ¥2,940(税込)
2006/8/25 Release



気がつけばいつもパリに恋わずらいしている...それはゆる
やかな甘美さで、せつなく、やさしく、ゆっくりと回転す
る移動遊園地のメリーゴランドのきらめく景色が忘れ
られない感覚と似ている。パリという街の不思議な魅力...
パリはまるで最高の恋人...そして多くの音楽家や詩人た
ちがそうしたように、その溢れる気持ちは音楽となり、ま
た言葉となり遠くへ飛んでゆく。好きだからいつもパリ
を口ずさむ。いつも頭の中でパリの音を奏でる。パリに
恋した人々はそうやってどんなに遠く離れていても、い
つでも心のすぐそばでパリを感じていたいと願うのだ。

- 01. Le Gamin de paris / 02. LA Seine / 03. Parisian
Thoroughfare -carrefour parisian- / 04. I Love Paris / 05. Je
teveux(instrumental) / 06. Omnibus automobile / 07. Tombeau
de socrate -Homage a Erik satie- (instrumental) / 08. Les quais
de la ssine / 09. Afternoon in Paris(instrumental) / 10. Sur les
quais du vieux Paris / 11. April in Paris(instrumental) / 12. A
Paris. / 13. La romance de Paris

THPRIM

THPRIM

VME VGDBRZ-0023 ¥3,150(税込)
2006/10/7 Release



三原色が交差する洗練された爽快サウンド!!
クラシカル&ポップセンスを踏襲した現代的なサウン
ドは、今までのピアノ・トリオとはまったく違う新感覚

- 01. Azure
- 02. Green Breeze
- 03. Rag Doll
- 04. Out grown Balanco
- 05. マチラノ香り
- 06. カリリヤからの列車
- 07. 回想
- 08. After Image
- 09. The 4th Colors
- 10. Pathos
- 11. Tears Color

藤田元一 (pkey) / 水野正敏 (b) / 仙道さおり (per,voice)

HEAVEN KNOWS

JAM-TAKO

ALIVE MUSIC JAM-001 ¥1,000(税込)
2006/9/1 Release



日本肢体不自由児協会公認チャリティー CD
「HEAVEN KNOWS」発売!!
売り上げによる ALIVE MUSE レーベルの収益は、日本肢
体不自由児協会に寄付いたします。

- 01. ANOTHER DAYBRAKE
- 02. ALL OVER NOW
- 03. WHEN YOU CRY
- 04. HEAVEN KNOW
- 05. RESCURE ME
- 06. STILL RUNNING
- 07. JOY OF LOVE
- 08. DREAMER

藤野 じゆん (Ds,g,b) / 田中あかね (Vo) / 後藤 美樹 (Vo,Key)

ワイルド・オーキッズ

スティーヴ・ハケット

WHD エンタテインメント IECP-10066 ¥2,625(税込)
2006/9/21 Release



終わらぬ物語。ふたたび影の世界へ...
スティーヴ・ハケットの全キャリア中異色作にして重要
作となった『ダークタウン』にも通じる深い霧に包まれた
ミステリアスな音世界が再び出現。ハケットの全アル
バム中最もミステリアスなストーリーを持ったトータ
ル・コンセプト・アルバム。奇妙な世界がすぐそこに...

- 01. Transylvanian Express / 02. Water Of The Wild / 03. Set
Your Compass / 04. Down Street / 05. A Girl Called Linda
- 06. To A Close / 07. Ego & Id / 08. Man In The Long Black
Coat / 09. Cedars Of Lebanon / 10. Wolfwork / 11. Why
- 12. She Moves In Memories / 13. The Fundamentals Of
Brainwashing / 14. Howl / 15. A Dark Night In Toytown
- 16. Eruption (日本盤のみ収録) / FOCUSの超人気曲の素晴
らしいカヴァー!! / 17. Reconditioned Nightmare(日
本盤のみ収録)

ジャズ〜ピアノ・ベスト50

V.A.

選曲対決が実現!! 若浪洋三 V.S. 寺島靖国
やっぱり、ジャズ、ピアノが聴きたい! ジャズ界の大御所二人が選んだオスメの名曲・名演それぞれ
25 曲計 50 曲を4枚に収めた決定版。選曲の選いを聴き比べてみてください。

コロムビアミュージックエンタテインメント
COCB-53564-7 ¥3,000(税込)
4枚組 2006/9/27 Release



- [DISK-1]
オスカー・ピーターソン: ザ・グッド・ライフ / イリアーヌ: ショロ / ハービー・ニコリス:
スワンダフル / ハンク・ジョーンズ: マイ・ファンシー・ヴァレンタイン / ジョージ・ウォー
リントン: アイル・リメンバー・エイプリル / エロール・ガーナー: インディアナ / ジョー
ジ・シアリング: スウィート・アンド・ラヴリー / ホール・ブレイト: ホエン・ウィル・ザ・
ブルース・リヴ / デュック・ジョーダン: フォーキャスト / トミー・フラナガン: イフ
アイ・ワート・ア・ベル / ハンプトン・ホース: ソウ・スメル / アキコ・グレース: オール
ブルース / 秋吉敏子: まりと殿様

- [DISK-2]
トミー・フラナガン: ムーン・リヴァー / オスカー・ピーターソン: ブルース・エチュード
ド / デューク・ジョーダン: ナイト・イン・チューニジア / ボール・スミス: トゥゲザ / ジョー
ジ・シアリング: ユー・ジョーズ・バップ / 秋吉敏子: スリー・フラインド・マイ / マリアン
マクパトランド: フォギー・デイ / ハンク・ジョーンズ: ナウ・ザ・タイム / ハンプトン
ホース: ジャン・ピエ / ジャック / アキコ・グレース: 鳥唄 / ジョン・ミーガン: チェロキー
/ パーバ / キャロル・トリオ: ユー・ステップ・アウト・オブ・ア・ドリーム

- [DISK-3]
マリアン・マクパトランド: ワンス・イン・ア・ホワイ / ジョージ・ウォーリントン:
ファイン・アンド・ダンディ / ハンク・ジョーンズ: アナ・イブニング・アット・パ / ジョー
ズ / アキコ・グレース: デランシー・ストリート / フルース / ボール・スミス: ザ・ウェイ
ユールック・トゥナイト / エロール・ガーナー: ア・コテージ / フォーク・セイ / イリアーヌ:
ビューティフル・ラブ / オスカー・ピーターソン: 小妻の国 / デューク・ジョーダン: サマ
タイム / ハンク・ジョーンズ: ムーンライト・ピカムズ・ユ / ビンソン・ヒル: ラベンダー
ス・テマ / ホビー・スコット: パッド / ビューティフル / ハンプトン・ホース: イッツ
ユウ・オア・ノウ / フン / ジョン・ミーガン: フルース・トゥ・マツ

- [DISK-4]
ダグ・カーン: サムタイムス・アイ・フィール・ア・マザーレス・チャイルド / ハンプト
ン・ホース: フル・バッド / トミー・フラナガン: アイ・ラブ・ユー / アキコ・グレース:
赤い靴 / ジョージ・大塚: ホット・チャ / YUMA ユー・ズ / スムース・サンバ
板橋文夫: グッド・バイ / トミー・フラナガン: ミスター・P.C. / マル・ウオルドロン: アップ
ダウン / ブルース / トミー・フラナガン: スター・アイズ / ザ・グレート・ジャズ・トリオ:
ス・ワンダフル

The live line!

10月の新宿ピットイン 【夜の部】

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000 ~ (1DRINK 付)



10月1日(日) **渋谷知らズ**

◎新宿ピットインにて、9/1よりチケット(予約可)前売り開始。

10月2日(月) **渋谷殺オーケストラ** ¥3,500

渋谷殺 (P) 峰厚介 (Ts)
松本健一 (Sax,Fl) 津上研太 (Sax)
青木タイセイ (Tb) 石渡明廣 (G)
上村勝正 (B) 古澤良治郎 (Ds)



渋谷殺

10月3日(火) **In the Spirit of Oscar** 前売 ¥6,000 当日 ¥6,500

ウルフ・フケニウス (G)
シェル・オウメン (P)
ハンス・パッケンロス (B)
ヨアキム・ユッケン・エクベリ (Ds)



In the Spirit of Oscar

◎新宿ピットインにて、9/2よりチケット(予約可)前売り開始。

10月4日(水) **竹内直カルテット**

竹内直 (Ts,Fl,B-d) 清水絵理子 (P) 工藤精 (B) 江藤良人 (Ds)

10月5日(木) **徳田雄一郎 Quintet**

1st CD "Initial Impulse 初期衝動" 発売記念ライブ
徳田雄一郎 (Sax) スガダイロー (P) 鈴木直人 (G)
中林薫平 (B) 長谷川学 (Ds)

10月6日(金) **ジョージ大塚 NIGHT**

ジョージ大塚 (Ds) 深沢真奈美 (P) 高山夏樹 (B)

10月7日(土)

Reuben Rogers Trio featuring Aaron Goldberg & Eric Harland
前売 ¥5,000 当日 ¥5,500

ルーベン・ロジャース (B) アーロン・ゴールドバーグ (P)
エリック・ハーランド (Ds)

◎新宿ピットインにて、9/2よりチケット(予約可)前売り開始。

10月8日(日) **酒井泰三 3355**

酒井泰三 (G) ナスノミツル (B) 藤掛正隆 (Ds)
タカダムネノリ (ts,sample)

10月9日(月) **エレナ/テツ/羽野** 前売 ¥3,500 当日 ¥4,000

エレナ・ベリエヴァ (Vo) 山内テツ (B,G,Vo) 羽野昌二 (Ds)
◎新宿ピットインにて、9/2よりチケット(予約可)前売り開始。

■ **日野皓正 Crimson Tour Final 4 Days** ■ ¥4,000

10月10日(火)

日野皓正 (Tp) 多田誠司 (As)

石井彰 (P) 金澤英明 (B) 井上功一 (Ds)

10月11日(水)

日野皓正 (Tp) 多田誠司 (As)

石井彰 (P) 金澤英明 (B) 井上功一 (Ds)

10月12日(木)

日野皓正 (Tp) 多田誠司 (As) 石井彰 (P)

金澤英明 (B) 井上功一 (Ds)

10月13日(金)

日野皓正 (Tp) 多田誠司 (As) 石井彰 (P)

金澤英明 (B) 井上功一 (Ds)

10月14日(土) **What is HIP?** ¥3,500

松木洋秀 (G) 野力奏一 (Key) 岡沢章 (B) 渡嘉敷祐一 (Ds)

10月15日(日) **Hiroki Band**

廣木光一 (G) 田中信任 (P) 飯田雅春 (B) 羽生一子 (Ds)

10月16日(月) **田村夏樹 GROUP**

田村夏樹 (Tp) 加藤崇之 (G) 藤井郷子 (Syn) 古澤良治郎 (Ds)

10月17日(火) **幸島文雄 NIGHT**

幸島文雄 (P) 池田篤 (As) 安藤正則 (Ds) ほか

10月18日(水) **グルポアカモ**

イサム神吉 (Per) 早坂紗知 (Sax) 小泉明子 (Vo,P)

神村晃司 (Key) 永田利樹 (B) 吉岡大輔 (Ds) カラモコ・カマラ (Per)

10月19日(木) **水谷浩章 3DAYS** ■

水谷浩章 presents "Risk Factor meets phonolite ensemble"

< Risk Factor >

太田朱美 (Fl) 石田 衛 (P) 縄原良次 (e-B)

橋本学 (Ds)

< phonolite ensemble >

水谷浩章 (conduct,B) 竹野昌邦, 松風鉦一 (Sax)

松本治 (Tb) MIYA (Fl) 橋本歩, 平山織絵 (Vc) 大儀見元 (Per)

新居章夫 (Sound)

10月20日(金) **phonolite**

水谷浩章 (B) 竹野昌邦, 松風鉦一 (Sax) 松本治 (Tb)

MIYA, 太田朱美 (Fl) 橋本歩, 平山織絵 (Vc) 中牟礼貞則 (G)

外山明 (Ds) 三住和彦 (Sound)

10月21日(土) **水谷浩章 presents "柳原陽一郎 Night"**

柳原陽一郎 (Vo,G) 水谷浩章 (B) 外山明 (Ds) 高良久美子 (Vib,Per)

MIYA, 太田朱美 (Fl) 橋本歩, 平山織絵 (Vc) 松本治 (Tb)

小澤惟史 (Tb) 宮里陽太 (Sax) 石川広行 (Tp) 三住和彦 (Sound)

SHINJUKU PIT INN

〒 160-0022

2-12-4 ACCORD BLDG. B1

Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN

☎ 03-3354-2024

http://www.pit-inn.com

10月22日(日) **インド音楽アミット・ロイコンサート**

開場 19:30 開演 20:00

アミット・ロイ (Sitar) 久本政則 (Tabla)

10月23日(月) **Harris Eisenstadt GROUP**

ハリス・アイゼンスタット (Ds) ジェイソン・メアーズ Jason

Mears (As,C) 松本健一 (Ts) ケリー・チュルコ Kelly Churko (G)

伊藤啓太 (B)

10月24日(火) **村田陽一 HOOKUP** ¥3,500

村田陽一 (Tb) 石成正人 (G) 小野塚晃 (Key,P) 小松秀行 (B)

佐野康夫 (Ds) ほか

10月25日(水) **板垣光弘 JUNCTION「JUNCTION?」CD 発売記念**

板垣光弘 (P) 生沼邦夫 (B) 安藤正則 (Ds)

10月26日(木) **佐藤允彦 カルテット** ¥3,500

佐藤允彦 (P) 山口真文 (Sax) 加藤真一 (B) 村上寛 (Ds)

10月27日(金) **☆☆☆○「三日月」**

青木タイセイ (Tb e-B Key etc) 芳垣安洋 (Ds,Per)

高良久美子 (Vib,Per) 鈴木徹大 (G)

10月28日(土) **浅川マキの世界 ~ 秋の一日 ~**

前売 ¥4,000 当日 ¥4,500

・ 昼の部 開演 4:00PM (開場 3:30PM)

・ 夜の部 開演 8:00PM (開場 7:30PM)

・ ゲストあり。

◎新宿ピットイン、チケットぴあにて、9/9よりチケット前売り開始。

10月29日(日) **松風鉦一カルテット**

「ゲストハウスで昼寝」CD 発売記念

松風鉦一 (Sax,Fl) 加藤崇之 (G)

水谷浩章 (B) 外山明 (Ds)



松風鉦一カルテット

10月30日(月) **ICP Orchestra** 前売 ¥4,500 当日 ¥5,000

ミシャ・メンゲルベルグ (P)

アップ・パウルス (Cl,Sax)

トーピアス・デーリウス (Cl,Sax)

マイケル・ムーア (Cl,Sax)

ICP Orchestra

ウォルター・ウィアボス (Tb) トーマス・ヘーブルル (Tp)

メアリー・オリバー (Vn, Viola) トリスタン・ホンシンガー (Cello)

エルンスト・フレールム (B) ハン・ベニク (Ds)

◎新宿ピットインにて、9/2よりチケット(予約可)前売り開始。

10月31日(火) **山下洋輔 ニュー・カルテット** ¥4,000

山下洋輔 (P) 柳原旭 (B) 小笠原拓海 (Ds) 米田裕也 (As)



INFORMATION

矢野沙織 with Dizzy Gillespie All Stars!

Groovin' High 全国 Tour

日時 10月25日(水) 開場▶18:00 開演▶18:30
 場所 浜松フォルテホール
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,000 当日¥5,500
 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500
 発売所 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:237-151)
 ローソンチケット▶0570-084-004(Lコード:45832)
 イープラス▶http://eplus.jp
 お問い合わせ K-MIX 事業企画グループ▶Tel 053-457-1160
 (平日 9:30 ~ 18:00)

日時 10月26日(木)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:30 開演▶21:15
 場所 名古屋ブルーノート
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥6,800
 発売所 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:238-179)
 CNプレイガイド▶0570-08-9999
 http://www.cnplayguide.com/
 名古屋ブルーノート▶052-961-6311
 ローソンチケット▶0570-084-004(Lコード:46010)
 イープラス▶http://eplus.jp
 お問い合わせ 名古屋ブルーノート▶Tel 052-961-6311

日時 10月27日(金)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:30 開演▶21:15
 場所 名古屋ブルーノート
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥6,800
 発売所 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:238-179)
 CNプレイガイド▶0570-08-9999 http://www.cnplayguide.com/
 名古屋ブルーノート▶052-961-6311
 ローソンチケット▶0570-084-004(Lコード:46010)
 イープラス▶http://eplus.jp
 お問い合わせ 名古屋ブルーノート▶Tel 052-961-6311

日時 10月30日(月) 開場▶19:00 開演▶19:30
 場所 浜離宮朝日ホール
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,500 一般発売▶9月2日(土)
 発売所 イープラス▶http://eplus.jp/saori/
 朝日ホールチケットセンター▶03-3267-9990(平日10:00~18:00)
 チケットぴあ▶0570-02-9999/0570-02-9966(Pコード:237-277)
 お問い合わせ 公演事務局(イープラス)▶Tel 0570-06-9939

日時 11月1日(水)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:30 開演▶21:30
 場所 大阪ブルーノート
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売:一般自由席¥6,900 ファンクラブ「OurLive」会員自由席¥5,900
 カジュアルシート(1ドリンク付) ¥4,900
 9月1日(金) 11:00~予約開始
 発売所 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:239205)
 大阪ブルーノート▶06-6342-7722
 お問い合わせ 大阪ブルーノート▶Tel 06-6342-7722

日時 11月2日(木)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:30 開演▶21:30
 場所 大阪ブルーノート
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売:一般自由席¥6,900 ファンクラブ「OurLive」会員自由席¥5,900
 カジュアルシート(1ドリンク付) ¥4,900
 9月1日(金) 11:00~予約開始
 発売所 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:239205)
 大阪ブルーノート▶06-6342-7722
 お問い合わせ 大阪ブルーノート▶Tel 06-6342-7722

日時 11月3日(金)
 開場▶15:30 開演▶16:00
 場所 宇都宮市文化会館・大ホール
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,000
 発売所 宇都宮文化会館プレイガイド▶028-634-6244
 ケイポイント▶048-881-2200
 イープラス▶http://eee.eplus.co.jp
 チケットぴあ▶0570-02-9999
 (Pコード:231-629)
 ローソンチケット▶0570-084-003
 (Lコード:38721)
 下野新聞プレイガイド
 (東武宇都宮百貨店2F、宇都宮パルコ1F)
 FDK ショッピングプラザ宇都宮3F
 FDK ショッピングモール宇都宮インターパーク店2F
 栃木県総合文化センタープレイガイド
 お問い合わせ 宇都宮文化会館▶Tel 028-636-2125
 ケイポイント▶Tel 048-881-2200

日時 11月6日(月) 開場▶18:30 開演▶19:00
 場所 川口リリア音楽ホール
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥6,000
 発売所 テレビ埼玉ミュージック▶048-827-0086
 (平日 9:30 ~ 17:30)
 リリアチケットセンター▶048-254-9900(10:00~19:00 火曜休)
 イープラス▶http://eee.eplus.co.jp
 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:234-002)
 テレビ埼玉ミュージック▶Tel 048-827-0086

日時 11月8日(水) 開場▶18:00 開演▶19:00
 場所 札幌 STV スピカ
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,500 スピカ会員¥4,900
 発売所 ローソンチケット▶0570-084-001(Lコード:18178)
 チケットぴあ/サンクス▶0570-02-9999(Pコード:235-436)
 STV ホームページオンラインチケット▶www.stv.ne.jp
 スピカ5プラザ、道新プレイガイド、4プラプレイガイド、大丸プレイガイド
 スピカインフォメーション▶Tel 011-280-7873

日時 11月9日(木) 開場▶18:30 開演▶19:00
 場所 仙台電力ホール
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,800 学生席(高校生以下) ¥2,000
 発売所 ローソンチケット▶0570-084-001(Lコード:25716)
 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:236-407)
 藤崎、三越、141
 お問い合わせ Wel Performing Arts Management Tel 022-771-1432

日時 11月10日(金) 開場▶18:30 開演▶19:00
 場所 新潟 PHASE ~中越地震復興2周年~
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,000 当日¥5,500 一般発売▶9月9日(土)
 ローソンチケット▶0570-084-003(Lコード:39781)
 チケットぴあ▶0570-02-9999(Pコード:239-844)
 BP サービスデスク、CoCoLo 万代本館、新潟大和
 FM PORT▶Tel 025-240-0079 FOB▶Tel 025-229-5000

日時 11月11日(土) 開場▶18:30 開演▶19:00
 場所 福井ハートピア春江・ハートピアホール
 メンバー 今泉正明(p) 上村信(b) 小松伸之(ds)
 料金 前売¥5,500 当日¥6,000
 ホール会員先行予約▶9月3日(日) 一般発売▶9月10日(日)
 ハートピア春江、松木屋日之出店、勝木書店本店、アルブラザミア、
 アル・プラザ鯖江、みくに文化未来館
 お問い合わせ オレンジ・ヴォイス・ファクトリー▶Tel 076-411-6121
 ハートピア春江▶Tel 0766-51-8800



横浜 JAZZ PROMENADE 2006

10月7日(土) 8日(日) 市内各所約120会場

日 時 10月7日(土) 8日(日) 12:00 ~ 21:00頃
 場 所 開港記念会館、関内ホール、横浜赤レンガ倉庫1号館、ランドマークホール、横浜みなとみらい大ホール、キリン横浜ビアビレッジ等、市内各所約120会場(2日間延べ)
 料 金 **全てのステージを見られる出入り自由なフリーパスチケット**
 ・ひとり券(10月7日・8日指定1人用券)4,000円
 ・両日券(10月7日・8日両日1人用券)7,000円
 ・ペア券(10月7日・8日指定2人用券)7,000円
 ・当日券(ひとり券)一般5,000円、中・高校生1,000円
 ・小学生以下 無料
公式ホームページ限定券
 7月31日午前10時から10月2日(月)正午までの枚数・期間限定販売!
 ・シングル券(10月7日もしくは8日1人用券)4,000円
 ・ダブル券(10月7日・8日両日1人用券)7,000円
 もしくはどちらかの日2人用券

主 催 横浜 JAZZ PROMENADE 実行委員会
 YOKOHAMA 本牧ジャズ祭実行委員会 / Summer Jazz 実行委員会 / 旭ジャズまつり実行委員会 / 港南ジャズフェスティバル実行委員会 / 横浜商工会議所(社)横浜青年会議所 / (財)横浜観光コンベンション・ビューロー / (財)横浜国際交流協会 (YOKE) / 横浜 JAZZ 協会 / (財)横浜市芸術文化振興財団
 協 力 JR 東日本横浜支社、東京急行電鉄、京浜急行電鉄、相模鉄道、横浜新都市交通、横浜高速鉄道、横浜銀行、横浜信用金庫、横浜みなとみらい21、横浜ケーブルテレビ協議会 ほか(予定)

オフィシャルホームページ <http://www.jazzpro.jp>

セシリオ&カポノ

Live ~ The Party Continues ~



日 時 10月30日(月) 31日(火)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:30 開演▶21:15
 場 所 大阪・Blue Note
 料 金 自由席(一般)¥7,500
 自由席(ファンクラブ「OurLive」会員)¥6,500
 カジュアルシート(1ドリンクつき)¥5,500(各税込)
 ※飲食代別途
 お問い合わせ 大阪 Blue Note ▶06-6342-7722
 8月30日(水) 一般発売開始

日 時 11月1日(水) 2日(木)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:30 開演▶21:30
 場 所 名古屋・Blue Note
 料 金 ¥7,800(税込) ※飲食代別途
 お問い合わせ 名古屋 Blue Note ▶052-961-6311 9月13日(水) 一般発売開始

日 時 11月4日(土)
 1ステージ 開場▶16:00 開演▶17:00
 2ステージ 開場▶19:30 開演▶20:30
【入替制】
 場 所 横浜・Thumbs Up
 料 金 前売¥6,000 当日¥6,500(税込) ※飲食代別途
 お問い合わせ Thumbs Up ▶045-314-8705
 主 催 Inter FM / Thumbs Up
 協力 ソニー・ミュージックダイレクト
 企画制作 トラモト・ハウス

~ Club IKSPIARI 2nd Anniversary Live! With CECILIO&KAPONO ~

日 時 11月5日(日)
 1ステージ 開場▶15:00 開演▶16:00
 2ステージ 開場▶18:00 開演▶19:00
【入替制】
 場 所 舞浜・Club IKSPIARI
 料 金 前売¥5,775 当日¥6,300(税込) ※飲食代別途
 お問い合わせ Club IKSPIARI 047-305-5700
 主 催 Club IKSPIARI
 協力 BAYFM/ソニー・ミュージックダイレクト
 企画制作 トラモト・ハウス

日 時 11月6日(月) 開場▶19:00 開演▶19:30
 場 所 渋谷・duo music exchange
 料 金 前売¥6,300 当日¥6,800(税込) ※ドリンク代¥600 別途
 ※整理番号あり ※お立見になる場合もございます。
 お問い合わせ Tomorrow House ▶03-5456-9155
 主 催 Inter FM
 協力 duo music exchange/ソニー・ミュージックダイレクト
 企画制作 トラモト・ハウス
 関東3公演▶8月25日(金) 一般発売開始

あんみつ

Live



10/14(土) 富山・ち一庵 (Tel ▶0766-55-0045)
 10/15(日) 金沢・もつきりや (Tel ▶076-231-0096)
 10/17(火) 京都・RAG (Tel ▶075-241-0446)
 10/18(水) 神戸・WYNTERLAND (Tel ▶078-252-8030)
 10/21(土) 名古屋・DOXY (Tel ▶052-242-1227)
 10/26(木) 東京原宿・BLUE JAY WAY
 (Tel.03-5785-1148)
 10/30(月) 札幌・宮越珈琲 ホールステアーズ エスプレッソバー
 (Tel ▶011-242-2252)

ジャッキー・ネイラー

来日公演決定!

日 時 10月23日(月) 24日(火)
 1ステージ 開場▶17:30 開演▶19:00
 2ステージ 開場▶20:45 開演▶21:30
 場 所 Blue Note Tokyo
 料 金 ¥6,300(税込) ※飲食代別途
 お問い合わせ Blue Note Tokyo ▶03-5485-0088

日 時 10月26日(木)
 1ステージ 開場▶17:00 開演▶18:30
 2ステージ 開場▶20:00 開演▶21:30
 場 所 Motion Blue yokohama
 料 金 ¥5,250(税込) ※飲食代別途
 お問い合わせ Motion Blue yokohama ▶045-226-1919

日 時 10月28日(土)
 1ステージ 開場▶17:00 開演▶18:00
 2ステージ 開場▶20:00 開演▶20:45
 場 所 Nagoya Blue Note
 料 金 ¥6,000(税込) ※飲食代別途
 お問い合わせ Nagoya Blue Note ▶052-961-6311



ジャッキー・ネイラー
 © Thomas Heinser

Live Info

9/25(月) 清水貴博 (acc) 臼井康浩 (g) 他
 名古屋なんや tel:052-762-9289
 start 19:00 ¥1,500 + order

9/28(木) ソボキ 西尾賢 (pf) 松本健一 (ts) 伊藤啓太 (b)
 Flyline:kei(g) 臼井康浩 (g)
 名古屋 Tokuzo tel ▶052-733-3709
 open 18:00 start 19:00
 前売り ¥2,500 当日 ¥2,800 + order
<http://www.tokuzo.com>

10/1(日) 深響 presents Deep Acoustics Live Act vol.20
 「World Avant Music Act」Zorzi Roberto from Italy
 Flyline:kei(g) 臼井康浩 (g)
 名古屋 KUKU tel ▶052-252-0669
 open 19:30 start 20:00 (1ドリンク付)

10/4(木) トリオ U.S.A 新井陽子 (pf) 臼井康浩 (g) 鈴木茂流 (永久持続音)
 高円寺 GOODMAN
 start 20:00 ¥1,000 + drink
<http://apaches.hp.infoseek.co.jp/goodman/>

10/16(月) ドラびでお
 Flyline[kei(g) 臼井康浩 (g)]
 sedge[臼井康浩 (g) 鈴木茂流 (永久持続音) 照喜名俊典 (tb.eu)
 小野良子 (as)
 Tokuzo tel ▶052-733-3709
 open 18:00 start 19:00 前売り ¥2,300 当日 ¥2,500 + order
<http://www.tokuzo.com>

10/24(火) 佐々木匡史 (ag.vo)/ 火足 / 臼井康浩 (g) 他
 名古屋 K.D.Japan tel: 052-251-0324
 open 18:00 start 19:00 2,000 + 1drink
<http://www2.odn.ne.jp/kdjapan/>

10/25(水) 七感弥広彰 (舞踏) 南澤靖浩 (シタール) 臼井康浩 (g)
 名古屋七ツ寺共同スタジオ tel:052-221-1318

10/26(木) 七感弥広彰 (舞踏) 南澤靖浩 (シタール) 臼井康浩 (g)
 名古屋七ツ寺共同スタジオ tel:052-221-1318



臼井康浩

ALL THAT JAZZ



text by 末次安里

七月一日の値上げを機に“なんとしても禁煙を!”の英断は果たされなかったものの、一週間遅れの七夕の夜以降、近年は一日50〜60本は吸っていたタバコを一切やめ(られ)たのだが、そこまで改心したのに向に体調の回復が思わしくないし、年に一度の区の定期健診でも「別段、悪いところは見当たりませぬね(ただし、糖尿病以外)」と言われたのだけれども、それにしてもあまりにも絶煙効果の実感が乏しく、このまま調子が悪いと(喉はまるで欲していないのに)ヤケを起こして上手くもない紫煙を再び煙らせるといふ悪循環に陥らないとも限らないので、1カ月ほど前から半ば発作的に県境の河川敷沿いを走るサイクリングロードを歩き始め、私鉄の鉄橋を潜り、徒歩で対岸へ渡れる次の橋まで行って、歩いてきた道に向う岸に仰ぎながら戻ってくるジャスト10kmのウォーキングを連日くり返している。ので、前号を校了して以降のこのひと月あまりはまるで本を読んでいないに等しく、歩行時にiPodを携帯しているから音楽は結構聴いているのだけれどもなぜか耳の実感としては“音楽を帯びている”という想いも乏しく、そんなこんなテクテク天国中にも自室では(最近購入した)VHS↓DVDへの簡単ダビング器は延々と作業続行中なので今月はセル&レンタルDVDを鑑賞する機会もめっきり減って…さらに今月は昨年制作分からとうとう300頁を超えてしまったふ厚いeweの総合カタログも同時編集しなければいけないので、ますます読書時間は削られ、睡眠時間は限られ、ウォーキン

グ時以外はあんまり音楽をかける気にもなれず、気づいてみたら外注原稿の入稿やレイアウト・チェックもひと通り終えて、あとはじぶんの担当原稿分とこの編集後記を残すのみという最終コーナーを迎えたのだが、(さて、今月はどんなAll That Jazzを綴ろうか?)と自問してみたら(…)、少し冷静になって再考してみても(…)という状態で一向に具体的な寸評掲載ソフトの候補が浮かんでこない。よくよく考えてみれば連日歩いてばかりいて、ある炎天下の午後などは勢い余ってふだんと逆方向の道程を海にぶつかるまで歩いてしまひ、翌日はじぶんの流す汗で背中がチカチカ状態となつて筋肉痛よりもそちらのほうがむしろ耐えられないという情けなさ…10年ほど前に突然「トライアスロンをやるぞ!」と決意して(これまた)ある日を境にタバコを完全に断ち、漕いで走って泳いでいた時期もそうではあったが、じぶんは性格的に元来ハマるとハマりやすく、つい昨日までは「駅まで歩くのも億劫な怠けもの」体質であつたにせよ、いざ変身を英断した途端に“健康オタク”と化してしまうあたりは昔から全然変わらぬ極端タイプの典型的B型人間なのである。とゆうわけで今月の当欄はどうでもいいようなコトを綴つて末席を汚すという従来の後記スタイルが一時的に復活。下記の編集長ブログももう半月以上ストップ状態だが本号が配られる頃には復活したいと思うのだが…さて、虹の彼方に“体調回復”の日々は待っているであろうか。こうなりや、徹底的に歩いて歩いて歩きまくるぞ!

(S)

Jazz Today®

発行人：鯉沼利成
編集人：末次安里
デザイン：Factory Jam (岡本義憲&三村洋一)

jazz today 30号
表紙画：タジマヤスタカ

制作：jazz todayプロジェクト
〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7-402
専用電話：03-3746-8760 e-mail：sue@image.ocn.ne.jp

ブログ版 編集長日誌 公開中! <http://blog.goo.ne.jp/jazztoday/>